

令和 6 年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価の結果について

1 目的

- ・各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ること。
- ・各学校が、自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の説明・公表により、保護者、地域住民から自らの教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
- ・教育委員会が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 スケジュール

- 4 月 学校経営重点計画（教育推進計画）の作成・公表
- 7 月～9 月 自己評価（中間）の実施、学校評議員への報告
- 11 月 児童・生徒、保護者アンケートの実施
- 12 月～1 月 自己評価（年度末）の実施
- 2 月～3 月 学校関係者評価の実施
- 3 月 指導課への評価結果の提出

3 各学校の評価結果

別紙による

4 評価結果を受けて

- ・取組指標と成果指標は同じ評価であった学校が全体の52%であった。取組指標が成果指標より上回る学校が28%であり、取組指標が成果指標より下回る学校が20%であった。
- ・コロナ禍前の取組をそのまま実施するのではなく、時間短縮や精選等を行って、同様の教育効果を得られるような工夫を継続して行っている。
- ・WEB - QU分析による学級経営やタブレットの効果的な活用、SNSルールや情報モラルなど、ICTに関する取組を多くの学校が実施することで、デジタル化の推進を図った。
- ・学校関係者評価では概ね肯定的な評価をいただいているが、各学校がより向上するために取り組むべき課題について、保護者や学校を支える地域の方の視点から貴重なご意見をいただいた。
- ・年度末評価の結果を今年度の教育課程に活かすとともに学校経営重点計画（教育推進計画）の立案を行う。

令和6年度		昭島市立東小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	◎よく考える子 ◎思いやりのある子 ◎健康で明るい子	ビジョン	【目指す学校像】	○子供たちが、安全・安心に楽しく過ごせる学校　○家庭・地域と共にある学校　○子供たちが、学ぶ喜びを実感できる学校	
			【目指す児童・生徒像】	○自ら考え、主体的に学ぶ子供　○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができる子供　○心身ともに健康で、活力のある子供	
			【目指す教師像】	○人権感覚を磨き、子供を大切にする教師　○常に向上心をもち、指導力の向上に努める教師　○公務員としての自覚をもち、信頼される教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	学ぶ楽しさを実感できる授業改善の推進 日常の指導の充実	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着	○指導と評価の一体化した授業 ○タブレット端末を活用した授業実践 ○学力調査の結果の分析及び授業改善推進プランの作成・実行 ○めあてを明確にし、振り返りを確実に行う授業	4 4項目全て取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が授業が分かると回答	4	○児童に評価のポイントを伝えることで、目指す姿を共有した。 ○タブレット端末を活用した授業を行ったが、時間配分に課題が残った。 ○指導と評価の一体化を目指した授業に取り組んだ。定着が不十分な際はすぐに授業改善に取り組んだ。 ○評価内容(項目)明確ではなかった。 ○基礎的・基本的な学習内容の定着に取り組んだ。	A		○ルーブリック評価を取り入れ、自己評価する機会を増やす。 ○タブレット端末の効果的な活用方法について研究する。 ○タブレット端末を使った授業を計画的に行う。 ○振り返りの時間を十分に確保する。 ○日々の児童の評価を欠かさず記録する。
			読書に関する指導や読書の習慣化への取組を日常化した読書活動の充実	3 3項目は取り組むことができた		3 80%～90%未満の児童が授業が分かると回答					
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%～80%未満の児童が授業が分かると回答					
				1 1項目は取り組むことができた		1 70%未満の児童が授業が分かると回答					
		読書に関する指導や読書の習慣化への取組を日常化した読書活動の充実	○朝読書の計画的な取組 ○読書月間の取組の充実 ○図書支援員の有効活用 ○授業での図書資料の活用	4 4項目全て取り組むことができた	2.9	4 95%以上の児童が30分以上の読書をしていると回答	1	○支援員の協力で、ふだん読まないような本にも関心をもつ児童がいた。 ○授業に図書資料を計画的に取り入れた。 ○朝読書の時間を確実に行った。	B		○調べ学習の手段として図書資料をより活用できるようにする。 ○図書の時間の十分な確保と静かに読書できる環境整備を行う。 ○担任による読み聞かせを計画的に行う。 ○読書月間・週間で児童の興味・関心を高める取り組みを行う。 ○家庭での読書の習慣化定着のために保護者会等で情報共有を行い連携・協力して行う。
				3 3項目は取り組むことができた		3 85%～90%未満の児童が30分以上の読書をしていると回答					
				2 2項目は取り組むことができた		2 80%～85%未満の児童が30分以上の読書をしていると回答					
				1 1項目は取り組むことができた		1 80%未満の児童が30分以上の読書をしていると回答					
		多様性に応じた指導、インクルーシブ教育の推進	○校内委員会の充実 ○大空教員との連携 ○ユニバーサルデザインを意識した環境づくり ○個に応じた教材・教具の工夫	4 4項目全て取り組むことができた	3.4	4 90%以上の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答	4	○校内委員会を通じて共通理解をして支援を行った。 ○ねらいの焦点化を図ることで、全員が同じ課題に取り組んだり、考えたりできた。 ○個に応じた座席の配置、教具の作成を特別支援教室や他の教員と相談し行った。 ○個別的教育支援計画・指導計画を基に指導内容を振り返り改善を図った。 ○児童教材の使用、指示の明確化等の工夫をして授業づくりをした。	A		○全員が同じ課題に取り組んだり、考えたりできたことは評価できる。 ○工夫された方策が形になって表れていると思う。引き続き力を入れてほしい。 ○情報を共有して1対1の対応ではなく、複数で対応していることが分かった。
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%～90%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答					
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%～80%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答					
				1 1項目は取り組むことができた		1 70%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答					
豊かな心	自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わり合いの中で、子供の内面を育てる道徳的な指導の実践	道徳全体計画、年間計画の見直しと「特別の教科 道徳」の授業改善と充実	○教職員同士による授業参観 ○道徳的価値や内容項目を明確にし、児童の変容を見取る ○年間指導計画の確実な実施 ○全教育活動を通じた道徳教育の実施	4 4項目全て取り組むことができた	2.8	4 90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答	4	○教科書以外の教材を生かした授業づくりを積極的に行った。 ○授業を参観できなかった。 ○OJTで学んだことを道徳科の授業で実践した。	A		○教科書以外の教材を生かした授業づくりを積極的に行ったことはよい事例に値する。 ○他の学級や学年、他校への参観の時間をしっかりと確保できる環境づくりにより一層努めてほしい。 ○個人の意見を否定することなく他の意見を受け入れて考えている。その場だけでなく少しずつ生活に生かしている。
				3 3項目は取り組むことができた		3 85%～90%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
				2 2項目は取り組むことができた		2 80～85%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
				1 1項目は取り組むことができた		1 80%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
		いじめの未然防止と早期発見、早期対応を推進し、安全で安心な学校の実現	○毎学期のアンケートを生かし、スクールカウンセラーや専門機関と連携し、いじめ・不登校0の実現 ○迅速かつ密な情報共有による組織的な対応	4 アンケート実施後の個別対応100%	4	4 不登校(傾向を含む)人数0人	3.8	○アンケート等で得た情報を校内で共有し、どのように対応すべきか管理職等と相談して対応した。 ○保護者にスクールカウンセラーへの相談を勧めた。 ○スクールカウンセラーからの専門的な意見が参考になった。 ○アンケートの聞き取りから個別対応を行った。	A		○学級経営の中で互いを認め合う風土をさらに強固にする。 ○今年度同様に引き続き初期対応を迅速に行う。 ○外部機関との連携を強める。 ○特別支援教育コーディネーターとの情報共有を密にし、校内の児童の実態を把握し、専門的な助言を行う。
				3 アンケート実施後の個別対応95%		3 1人					
				2 アンケート実施後の個別対応90%		2 2人					
				1 アンケート実施後の個別対応85%		1 3人					
		学校行事等を通して異学年間の交流を深め、豊かな人間性の育成	○交流体験活動の実施 ○実践的体験活動の実施 ○栽培体験学習の実施 ○縦割り班活動の充実	4 4項目全て取り組むことができた	2.9	4 90%以上の児童が学校が楽しいと回答	3	○縦割り班活動でいろいろな学年と交流ができている。 ○保育園との交流が児童にとってよい経験になった。 ○栽培体験学習が十分に行えなかった。 ○学校行事における異学年交流の充実に努めた。	A		○保育園との交流が児童の生活に生かされていると思う。 ○異学年交流はできていると思うが、楽しめている児童がどの程度いるのかが不明。一層期待します。 ○少子化と言われる現代で様々な年齢の人たちと関わるのが小さい頃からできる試みはすばきだと思う。
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%～90%未満の児童が学校が楽しいと回答					
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%～80%未満の児童が学校が楽しいと回答					
				1 1項目は取り組むことができた		1 70%未満の児童が学校が楽しいと回答					
健やかな体	様々な運動を体験させて、その特性に触れた運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進	学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励	○休み時間の外遊びの奨励 ○運動に親しみやすい環境整備 ○運動集会を活用した児童の運動への興味・関心の向上	4 毎週子供たちと一緒に遊ぶ時間の確保3回以上	3.2	4 90%以上の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答	2	○子供と一緒に遊ぶ機会・時間を設けている。 ○個別の対応、委員会の指導等で十分に遊ぶ時間を確保できなかった。 ○担任の教員が休み時間に児童と一緒に遊んでいる学級は外に出て遊ぶ児童が増えている。 ○可能な限り児童と外で一緒に遊ぶようにしている。	A		○児童と一緒に遊ぶのは、よいことだと思う。 ○先生方の体を使った努力が、十分に見て取れた。今後も頑張りたい。 ○苦手意識を軽減しながら、楽しんで体を動かせる機会が増えればよいと思う。
				3 2回		3 80%～90%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答					
				2 1回		2 70%～80%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答					
				1 0回		1 70%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答					
		年間を通した体力向上への取組(「元氣アップガイドブック」等の活用)	○「元氣アップガイドブック」の活用及び「グッドモーニング60分」への取組 ○運動の特性を生かす体育授業改善 ○めあてが明確な学習の展開 ○オリンピック・パラリンピック大会後のレガシーを生かした取組	4 4項目全て取り組むことができた	2.6	4 90%以上の家庭が体力向上に満足と回答	1	○子供たちが楽しんでめあてを達成できる体育の授業づくりを心掛けている。 ○振り返り児童の学習意欲を高めた。 ○休み時間に鉄棒の練習をしている児童の支援をし意欲や技術の向上に努めた。 ○「元氣アップガイドブック」を十分に活用できなかった。 ○家庭での過ごし方についてチェックリストを活用し、支援を行った。	B		○成果指標より実際はよいのではないかとと思う。 ○子供たちが楽しんでめあてを達成できるように努力していると思う。 ○習い事、体育の時間以外で体を動かす機会が減っていると感じる。せめて休み時間だけでなく外で遊んでほしいと思う。
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%～90%未満の家庭が体力向上に満足と回答					
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%～80%未満の家庭が体力向上に満足と回答					
				1 1項目は取り組むことができた		1 70%未満の家庭が体力向上に満足と回答					
		食育の充実	○ランچルームの計画的な有効活用 ○栄養教諭や共同調理場と連携した食育の推進 ○地域人材や資源を活用した食育に関する授業の実施	4 年間で食育に関する授業の実施3回以上	2.2	4 年間の残菜率7%	3	○家庭科や給食の時間で栄養バランスを考えた食事の大切さを学習した。 ○学級活動で給食のマナーについて考えさせた。保護者会で食育を話題に話し合った。 ○年度途中で栄養士が変わったため食育への取組が行えなかった。	B		○年間の残菜率が8%に上昇したことは、残念である。 ○給食時間の保護者参観などをして家庭でも話題になるようにするのよいのではないかと。 ○来年度は、給食試食会を実施したい。親子で食べる機会があるといいと思う。
				3 2回		3 年間の残菜率8%					
				2 1回		2 年間の残菜率9%					
				1 0回		1 年間の残菜率10%					
輝く未来	人権尊重の精神を基調として心身ともに健康な児童の育成を目指す、自他の大切さを認め、人権課題について学び、権利と義務、自由と責任についての認識を深める。また、児童が未来を生きていく力の育成	一人一人のよさを生かし、意欲とまとまりのある学級集団づくり	○学級経営の振り返り・評価・改善 ○児童の考えや意見を生かした教育活動の工夫 ○学級満足度調査「Q-U」の結果を有効に生かした児童理解・学級づくり ○学級満足度調査「Q-U」の結果を有効に生かした課題の把握・改善	4 4項目全て取り組むことができた	2.7	4 QUの結果で各学級の要支援群0人	3	○毎週学級経営の振り返りをし、翌週の指導へとつなげた。 ○一人一人のよい点は認め、課題については確実に伝える。 ○一貫した指導を行う。 ○QUの結果を基に児童への言葉掛けや活動を工夫した。 ○気が付いたことを担任と共有し、学校全体で見守る姿勢で取り組んだ。	A		○特別活動で児童の願いをかなえる機会を増やしていく。 ○支援が必要な児童一人一人を理解し、細やかな指導を行うための特別支援教育の研修を特別支援教室の教員を講師に校内で研修を行う。 ○共通理解を継続していく。
				3 3項目は取り組むことができた		3 1人					
				2 2項目は取り組むことができた		2 2人					
				1 1項目は取り組むことができた		1 3人					
		学級活動を中心に、全教育活動におけるキャリア教育の充実	○学校生活への適応 ○仲間づくり、集団の結束 ○自ら役割の自覚 ○年間指導計画に応じたキャリア教育の実践	4 4項目全て取り組むことができた	3.2	4 90%以上の児童が得意・ものを考えると回答	3	○学校行事を通して協力して物事に取り組むことの大切さを実感した。 ○学級活動を計画的に進めた。 ○当番活動で人のために役立つ大切さについて振り返りを行っている。 ○小中連携で中学校教員に協力してもらった授業実践は児童にとってもよいものだった。 ○児童会活動において各項目を意識できるように取り組んだ。	A		○小中連携での行事は、よいことだと思う。 ○みんな考えてまとめて協力しようと考えている子供が多いと感じる。 ○高学年児童の自立感や運営力の成長が目覚しい。取組が形になっていると思う。
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%～90%未満の児童が得意・ものを考えると回答					
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%～80%未満の児童が得意・ものを考えると回答					
				1 1項目は取り組むことができた		1 70%未満の児童が得意・ものを考えると回答					
		保護者・地域と連携し、様々な活動を通して、将来への希望をもたせる	○地域人材を活用した取組の充実 ○家庭訪問・個人面談の実施 ○専門機関との連携 ○PTA活動への理解と協力	4 4項目全て取り組むことができた	2.8	4 90%以上の児童が将来について考えると回答	2	○個人面談で家庭と児童の情報共有を行った。 ○開校70周年記念集会で開校当初の卒業生の地域の方にお話しいただいたのは、愛校心や地域への愛着を図るうえでとてもよかった。 ○PTAの活動に参加できた。	A		○地域との連携がしっかりとできていて評価できる。 ○より多くの地域や保護者以外の人と接することのできる機会が増えたらよいと思う。 ○PTAとして休日のイベントだけでなく、日頃から学校や地域と連携して親子で体験できることを増やせればと考える。以前と比べるとそういった機会が減っていると感じている。
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%～90%未満の児童が将来について考えると回答					
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%～80%未満の児童が将来について考えると回答					
				1 1項目は取り組むことができた		1 70%未満の児童が将来について考えると回答					

令和6年度		昭島市立共成小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】							
学校教育目標		○ 助け合う子 ◎ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子		ビジョン		【目指す学校像】		○児童が、「学びの実感」「協働意識」「心と体の元気」を感じる学校		○児童が、自己決定しながら「なりたい自分」を目指す学校	
						【目指す児童・生徒像】		○学ぶ楽しさを知り、自己調整しながら学ぶ子ども		○自他を大切にし、しなやかに、共に伸びようとする子ども	
						【目指す教師像】		○温かな教育をする教師		○子どもを信じ、子供の思いを大切にする教師	
								○共成小の教育に貢献する教師		○マネジメントできる教師	
領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が主体的に学ぶ学習者中心の授業改善により、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を図る。	教師の「ファシリテーション力」UP	・児童に委ねる覚悟 ・学び方の指導 ・導入の工夫 ・見通し・ゴールの明確化	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 すすんで学習に取り組む…9割以上 3 すすんで学習に取り組む…8割以上 2 すすんで学習に取り組む…7割以上 1 すすんで学習に取り組む…7割未満	3	9割に惜しくも届かなかったが、意欲的な児童の姿が、データより読み取ることができ	意欲的な児童が多くてよい。自己評価の低い児童及び教職員の自己肯定感を期待したい。	B	授業の明確な見通しをもたせ、自己評価の低い児童に寄り添いファシリテーション力を向上させる。
		「自己選択・自己決定」で児童の学習意欲向上	・自己選択の場の設定 ・自己決定の成功体験 ・自分に合った目標設定 ・自由学習への挑戦	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 学習していることが分かる…9割以上 3 学習していることが分かる…8割以上 2 学習していることが分かる…7割以上 1 学習していることが分かる…7割未満	4	児童の自己評価が高い状況が続いている。引き続き、意欲を高め、学力向上へ向けて取り組んでいく。	自己決定して成功体験できたことから、学習をもっとしたいという意欲が高くなったことが読み取れる。	A	「自己選択・自己決定」の学習場面をさらに増やすことで児童の学習意欲を向上させる。
		「振り返り」の工夫・充実で学びの自覚へ	・個⇒協⇒個の授業構成 ・毎時間の学びの自覚 ・確実な単元の振り返り ・ICT活用で振り返りの工夫	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 学習したことをしっかりと振り返っている…9割以上 3 学習したことをしっかりと振り返っている…8割以上 2 学習したことをしっかりと振り返っている…7割以上 1 学習したことをしっかりと振り返っている…7割未満	3	8割程度の教員が3項目取り組んでおり、教員の意識の高まりが振り返りの成果指標に反映している。	振り返りをする工夫にICTの活用と授業の構成に意欲的に取り組んだ成果がみられる。	B	一人一人のことを考えた指導の工夫から、振り返りの時間を大切にし、次時につなげるようにさせる。
豊かな心	児童が自尊感情を持ち、「安心基地(安心な環境)」の中で、自他を大切にしながら協働できる学校を創る。	全ての児童にとっての「安心基地・居場所」づくり	・SOSの出し方指導 ・いじめの防止・早期解決 ・相談しやすい環境 ・個別の配慮・支援	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 学校で安心して学習・生活できている…8割以上 3 学校で安心して学習・生活できている…7割以上 2 学校で安心して学習・生活できている…6割以上 1 学校で安心して学習・生活できている…6割未満	4	教員の意識、児童の評価ともに高まっている。今後も継続して安心基地となることができるようにしていく。	全体的に落ち着いていてもよい。安心できないと思っている児童の理解が、さらに必要である。	A	WEBQUの結果を生かし児童の実態をより理解して、安心して学習できる環境づくりに努めていく。
		互いに認め合い、自他を尊重する人権感覚の醸成	・友達の良いところ探し ・感謝を伝え合う関係作り ・道德授業の質の向上 ・優しい言葉の浸透	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 自分も相手も大切にしている…9割以上 3 自分も相手も大切にしている…8割以上 2 自分も相手も大切にしている…7割以上 1 自分も相手も大切にしている…7割未満	4	児童の自己評価が9割を超えている。日常の学校での活動で繰り返し指導している成果が表れてきている。	振り返りをする工夫にICTの活用と授業の構成に意欲的に取り組んだ成果がみられる。	A	児童がすすんで考えて行動できる機会を増やし、自他ともに大切にする心を育てていく。
		他者となつがり、協働する喜びの実感	・挨拶・アイコンタクト ・児童間交流の充実 ・児童会活動の充実 ・多様な他者との関わり	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 みんなと一緒に活動することが楽しい…9割以上 3 みんなと一緒に活動することが楽しい…8割以上 2 みんなと一緒に活動することが楽しい…7割以上 1 みんなと一緒に活動することが楽しい…7割未満	4	児童の評価は高いが教員の評価は低い。より高いレベルを求めているとも捉えることができるため、更なる活動の充実を図ってきたい。	挨拶を協力し合って日常的に交流できる喜びを感じる活動が充実するようにしている様子がわかる。	A	行事の実行委員を全学年の代表が行ったり、異学年で休み時間遊んだりと他者となつがる場面を多く取り入れる。
健やかな体	児童が自分の「心と体の元気」を感じながら、体力向上と健康について考え、実践する態度を育む。	運動する楽しさの実感と日常的な運動遊びの充実と体育授業改善	・運動遊びの充実 ・元気アップガイドブック活用 ・共成サーキットなどの取組 ・体育授業の専門性向上	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 体力が付いてきている実感…9割以上 3 体力が付いてきている実感…8割以上 2 体力が付いてきている実感…7割以上 1 体力が付いてきている実感…7割未満	4	項目によっては、今後の周知と共通理解を促進させる必要がある。	学校外の活動でも学年間をわす、仲が良い。低学年は特に元気よく挨拶することができている。	A	体力テストで児童の課題を把握し、運動を楽しみながら体力向上できるように指導を工夫する。
		望ましい生活習慣と安全な生活のための実践的態度の育成	・家庭と連携したGM60分 ・食育教育の充実 ・安全指導の充実 ・児童の危険回避能力向上	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 望ましい生活習慣が身に付いている…8割以上 3 望ましい生活習慣が身に付いている…7割以上 2 望ましい生活習慣が身に付いている…6割以上 1 望ましい生活習慣が身に付いている…6割未満	4	児童の多くは、望ましい生活習慣や安全な生活ができていると評価しており、教員の意識も高まってきている。	家庭によって様々な考え方もあり、連携も大変だと思う。安心安全な学校環境をこれかも期待したい。	A	毎月の安全指導や避難訓練を徹底し、保護者会等で生活習慣に関しても呼びかけていく。
		しなやかで折れない心(レジリエンス)の醸成	・ハビネス・マインドの浸透 ・心のもち方指導 ・前向きな言葉かけ ・自尊感情の向上	4 全教員がハビネスマインドを意識した心のもち方を指導した。 3 9割の教員がハビネスマインドを意識した心のもち方を指導した。 2 8割の教員がハビネスマインドを意識した心のもち方を指導した。 1 7割の教員がハビネスマインドを意識した心のもち方を指導した。	3	4 困ったときに前向きな気持ちをもてる…8割以上 3 困ったときに前向きな気持ちをもてる…7割以上 2 困ったときに前向きな気持ちをもてる…6割以上 1 困ったときに前向きな気持ちをもてる…6割未満	4	レジリエンスについては、児童の評価と職員の評価には差がある。今後も日々の生活の中で自尊感情を高め、レジリエンスを育んでいく。	心を回復させる力は、いつも笑顔と優しい言葉かけができるように繰り返し向けることが大切だと感じた。	A	命の教室などの出前授業を通して、心のもち方を学び、教員と児童ともに前向きな言葉掛けを心がける。
輝く未来	認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己の良さを実感し、自己決定しながら、「なりたい自分」を目指す学校を創る。	児童が主体性に学校や学級をよりよくしようとする力の育成	・一人一人の活躍の場 ・学級会活動の充実 ・主体性を発揮できる行事 ・共成会議、実行委員	4 全教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 3 9割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 2 8割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 1 7割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。	3	4 学校や学級で役に立っている…8割以上 3 学校や学級で役に立っている…7割以上 2 学校や学級で役に立っている…6割以上 1 学校や学級で役に立っている…6割未満	4	児童の多くは、自分が学校や学級の役に立てていると感じている。教員側の取組による成果が表れている。	児童一人一人が自分の役割を自覚しながら行動できることはすばらしいと思う。	A	主体性を実感できる行事で、実行委員一人一人の活躍する場を設け、児童の自己有用感を高めていく。
		温かく、共感的な人間関係に支えられた望ましい学級集団づくり	・ルールや規律の徹底 ・挑戦できる学級風土 ・QU結果の効果的活用 ・SGE、SST、PAの活用	4 全学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 3 9割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 2 8割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 1 7割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。	3	4 クラスは楽しい…9割以上 3 クラスは楽しい…8割以上 2 クラスは楽しい…7割以上 1 クラスは楽しい…7割未満	4	児童の多くが学級が楽しいと感じている。WEBQUで気になる児童の結果分析も参考にできていると思われる。	クラスの楽しいという評価はすばらしい。子供たちのアイデアで運動会の種目を決めることはよい。	A	QUの結果を活用した学級経営研修を実施し、理解を深めたくえて、学級を支えていけるようにする。
		「なりたい自分」の実現に向け、自己選択・自己決定できる力の向上	・キャリアパスポートの活用 ・自己選択の場の設定 ・成功体験の積み上げ ・主体的行動への環境整備	4 全教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値つけた。 3 9割の教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値つけた。 2 8割の教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値つけた。 1 7割の教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値つけた。	3	4 自分で決めて行動できる…8割以上 3 自分で決めて行動できる…7割以上 2 自分で決めて行動できる…6割以上 1 自分で決めて行動できる…6割未満	4	多くの学級で自ら行う目標設定や振り返りを行っている。今後もキャリアパスポートを活用して継続的に行っていく。	振り返りができる余裕が自分で行動できる、決定できる力を、後押しできていると感じる。	A	自己選択し、自身を振り返り、次時の目標を立てるという見通しをもてるように、授業を組み立てていく。

令和6年度		昭島市立富士見丘小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	○ よく考える子ども ○ けんこうな子ども ○ すすんで働く子ども ◎ 思いやりのある子ども	ビジョン	【目指す学校像】	職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校	
			【目指す児童・生徒像】	未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供	
			【目指す教師像】	児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に臆することなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子の育成	主体的に学びに向かう力の涵養とともに、学習習慣の確立	「学びのすすめ」「自主学習ノート」「寺子屋」の推進等、授業と家庭学習との連携強化	4 寺子屋…実施回数90%以上 3 寺子屋…実施回数80%以上 2 寺子屋…実施回数70%以上 1 寺子屋…実施回数70%未満	4	4 学年×10分の家庭学習…90%以上 3 学年×10分の家庭学習…80%以上 2 学年×10分の家庭学習…70%以上 1 学年×10分の家庭学習…70%未満	3	○推進プラン改善充実 ●自主学習の推進	生活習慣の乱れが、家庭学習の定着を阻害しているのではないか。	B	[自主学習ノート]と[学びのすすめ]を核として、学習習慣を定着させる。
			生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	UDやICT、授業スタイルやノートの統一、板書や発問の工夫等、効果的な学習指導		4 診断シート正答数半数未満…10%未満 3 診断シート正答数半数未満…20%未満 2 診断シート正答数半数未満…30%未満 1 診断シート正答数半数未満…30%以上					
			未知の課題に納得解を導き、新たな価値を創造する力の育成	「探究ノート」を活用した課題解決等、自ら考え判断し表現する学習と深い学びの重視		4 主体的に課題解決…90%以上 3 主体的に課題解決…80%以上 2 主体的に課題解決…70%以上 1 主体的に課題解決…70%未満					
		個性を生かし、相互の信頼関係を深め、自己有用感の醸成	「h-QU」の結果を生かした児童集会や縦割り班活動等、異年齢集団の活動の推進	4 異学年活動…実施率90%以上 3 異学年活動…実施率80%以上 2 異学年活動…実施率70%以上 1 異学年活動…実施率70%未満	4	4 社会通念上のいじめ…0～5件 3 社会通念上のいじめ…6～15件 2 社会通念上のいじめ…16～30件 1 社会通念上のいじめ…31件以上	4	○穏やかな学校生活 ○自己有用感が向上	毎日、子供たちの笑顔があふれる楽しい学校になった。	A	ふれあい月間の[命の授業]、WebQUなど、豊かな関係性を醸成。
			認知機能を高め、自己共に敬意をもって関係する力の育成	「コグトレ」や学級活動の工夫による認知機能や感情統制、やり抜く力等の重視		4 認知機能の向上…90%以上の児童 3 認知機能の向上…90%以上の児童 2 認知機能の向上…70%以上の児童 1 認知機能の向上…70%未満の児童					
			自他を大切にし、よく生きる、内面に根ざした道徳性の涵養	問題解決的あるいは体験を通した発問構成の工夫、広い視野で考え議論する道徳		4 自分事として考える…80%以上の児童 3 自分事として考える…70%以上の児童 2 自分事として考える…60%以上の児童 1 自分事として考える…60%未満の児童					
		新しい生活様式に基づき、人の命を守る意識と行動力の育成	「グッドモーニング60分」等、家庭との協働を強化し、感染防止と新しい生活様式の定着	4 グッドモーニングの取組…90%以上の児童 3 グッドモーニングの取組…80%以上の児童 2 グッドモーニングの取組…70%以上の児童 1 グッドモーニングの取組…70%未満の児童	4	4 病欠児童…1日の平均0～3人 3 病欠児童…1日の平均4～7人 2 病欠児童…1日の平均8～11人 1 病欠児童…1日の平均12人以上	3	○感染防止の徹底 ●スマホ依存増加傾向	スマホ利用時間が極端に長く、生活習慣に支障が生じている。	B	[ノースマホデー]など、スマホやゲーム依存の対策を講じていく。
			基礎的な体力の向上と生涯に渡り運動に親しむ資質能力の向上	「元気アップガイドブック」を活用した運動習慣につながる授業の工夫、家庭との連携協力		4 運動することが楽しい…90%以上の児童 3 運動することが楽しい…80%以上の児童 2 運動することが楽しい…70%以上の児童 1 運動することが楽しい…70%未満の児童					
			様々な欲求やストレス等に対して、適切に対処できる力の醸成	自殺防止授業の他、全学年で「SOSカード」を活用した多様な対処方法を推進		4 大人に相談できる…90%以上の児童 3 大人に相談できる…80%以上の児童 2 大人に相談できる…70%以上の児童 1 大人に相談できる…70%未満の児童					
輝く未来	未知の課題を思索し、新たな価値観や行動を生み出し、協働して未来を創造する子の育成	言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力の育成	学校図書館に学習・情報センター機能をもたせ、全教育課程で言語活動を充実	4 図書館機能を活用…全学級月4回以上 3 図書館機能を活用…全学級月3回 2 図書館機能を活用…全学級月2回 1 図書館機能を活用…全学級月1回以下	3	4 言語能力向上…80%以上の児童 3 言語能力向上…70%以上の児童 2 言語能力向上…60%以上の児童 1 言語能力向上…60%未満の児童	4	○図書館の活用充実 ○語り合い活動の充実	学校生活の様々な場面で読書をしていたり、本を活用したりしている。	A	[短作文][読書感想文][調べコン][思索コン]などのつながりを重視する。
			情報活用能力とともに、新たな解を創造する力の醸成	1人1台の端末やオンラインの活用など、見方・考え方を働かせながら思索する場の充実		4 論理的思考力向上…80%以上の児童 3 論理的思考力向上…70%以上の児童 2 論理的思考力向上…60%以上の児童 1 論理的思考力向上…60%未満の児童					
			多様な文化を尊重し、世界の人々と協調し活躍できる人材に育成	調べる学習コンクール参加等、家庭や地域と連携・協働した自己実現への手だての充実		4 主体的に探究…80%以上の児童 3 主体的に探究…70%以上の児童 2 主体的に探究…60%以上の児童 1 主体的に探究…60%未満の児童					
					3		4	○縦割り班活動の充実 ○各種賞の上位入賞	秀でている子供たちの成果が認められ、全体に波及している。	B	[未知の課題に対峙する力]を育成する機会を意図的に設定していく。
					3		4				

令和6年度		昭島市立武蔵野小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	〇しっかり考える子(問題解決力) 〇心やさしい子(人間関係形成力) 〇つよく元気な子(体力・活力)	ビジョン	【目指す学校像】	〇児童にとって充実した学校 〇保護者にとって信頼できる学校 〇教職員にとって働きがいのある学校	
			【目指す児童・生徒像】	〇思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども〇感性あふれる豊かな心をもつ子ども 〇すすんで心と体を鍛えることができる子ども	
			【目指す教師像】	〇ありのままの児童を受け止め、個性を発揮させる教師 〇授業で勝負できる教師 〇家庭・地域との相互理解を深め協働できる教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	〇基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに主体的・対話的で深い学びによる授業改善を目指す。	〇授業の中で学ぶ楽しさを味わい、主体的に学習する態度の育成を図る。	〇児童が主体的に学習に励み、3つの資質能力の育成を図れるよう問題解決能力の育成を図る。	4 全教員がアンケートを実施した。 3 80%～100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%～80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4	4 アンケート調査で70%以上の児童が肯定的な回答をしている。 3 アンケート調査で70%未満～60%の児童が肯定的な回答をしている。 2 アンケート調査で60%未満～50%の児童が肯定的な回答をしている。 1 アンケート調査で50%未満の児童が肯定的な回答をしている。	4	各教科の基礎基本の定着に向けた授業改善及び教育課程の見直しを行い、子供たちの学習環境を整えることに加え、校内研究の成果と課題を見直し、主体的に学習に取り組めるよう授業改善に努める。	1学期に比べ低下している学年が見受けられるが、概ね満足できる状況になってきている。今後も授業改善を推進してほしい。	A	今年度の学力テストの結果を各学年分析し、成果と課題を共有する。そして学校全体の実態を把握し、次年度の校内研究の内容や主題につなげるとともに、主体的に学びに向かう児童の育成を目指した授業改善につなげていきたい。
		〇ICTを活用した授業を充実させ、児童の「情報活用能力」の育成を図る。	〇各学年で昭島市から示されている「子供たちに身に付けさせたいICT操作能力」を把握し、資質能力の育成を目指す。	4 全教員がアンケートを実施した。 3 80%～100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%～80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4	4 90%以上の児童がタブレットを活用している。 3 80%～90%未満の児童がタブレットを活用している。 2 70%～80%未満の児童がタブレットを活用している。 1 70%未満の児童がタブレットを活用している。	3	年度途中と年度末に結果を比較できるように、2学期中にアンケートを実施し、児童の実態を把握できるようにしたり、教員間でもICT活用情報伝達研修会を開催したりした。	ICTの活用能力がこれからの児童にとって必要になるため、今後も推進してほしい。また、低学年段階での活用方法についても明確にしてほしい。	B	年度はじめにICT主任を中心に「子供たちに身に付けさせたいICT操作能力」の共通理解を図る。また、年間指導計画に「身に付けさせたい力」を入れ込み、意図的・計画的な指導を行えるようにする。
		〇読書活動の推進と言語能力の育成に向け、学校司書及びボランティアが連携し、子供たちの読書活動の一層の推進を図る。	〇学校司書が中心となり、ボランティアや委員会の活動等で連携を図り、子供たちの読書活動の一層の推進を行う。	4 各学級で図書室を月4回以上使用した。 3 各学級で図書室を月3回以上使用した。 2 各学級で図書室を月2回以上使用した。 1 各学級で図書室を月1回以下使用した。	2	4 90%以上の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 3 80%～90%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 2 70%～80%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 1 70%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。	3	図書主任や図書館支援員が担任と連携しながら、定期的な図書室利用の習慣化を目指したり、読書旬間のイベントを企画したりし、年間を通して読書に関する教育活動を実施していく。	読書離れがあるため、今後もデジタルだけでなく紙媒体の書籍に触れる機会を継続してつくってほしい。また、時間の確保も再考してほしい。	B	図書主任や図書館支援員の働きかけだけでなく、国語科を要として、年間指導計画の中に図書室の利用と関連させられる単元を入れたり、他教科との関連を図ったりして図書のさらなる活用を目指したい。
豊かな心	〇相手の気持ちを想像し、人との関わりを大切にできる豊かな心を育成する。	〇児童の自己肯定感を高め、常に相手のことを考え行動することができるようにする。	〇HQU調査を年2回実施し、学級の実態に応じた指導をする。	4 全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 3 80～100%の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 2 70%から80%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 1 70%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	4	4 90%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 3 80%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 2 60%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 1 自己肯定感があると感じている児童が60%未満だった。	3	各学年のアンケート結果から児童の実態をつかみ、改善策を見出し、教員同士で各学年の実態を共有する場を定期的に設けている。また、子供の課題や悩みに応じて個別に面談を行い、保護者と情報共有をしている。	自己肯定感を高めるために、積極的に保護者と面談を行う等、連携を密にしている。クラスによって差が見受けられるので、学校全体で、連携方法を明確にしていきたい。	B	夏休み中の個人面談の共通課題事項として、学級満足度調査の実施結果を設定して、また、保護者と連携し、児童一人一人の課題改善に対応できるように個人面談や保護者会、お便り等の連携体制を整え、学校と家庭とで積極的に協力を図る。
		〇道徳科を道徳教育の要の時間と位置付け、教科横断的な視点で各教科にて、計画的・発展的に行うようにする。	〇教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	4 すべての教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 3 70%～100%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 2 40%～70%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 1 40%未満の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。	4	4 95%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 1 振り返りを書くことが出来た児童が80%以下だった。	3	共通のワークシートを学年間で共有したり、道徳授業地区公開講座に向けた授業検討会や冊子の作成、道徳授業地区公開講座では、保護者(水泳の元日本代表)による夢や努力に関する講演会を実施した。	素晴らしい講演会を実施していた。児童が将来の夢について考えるきっかけとなる時間となった。人を思いやる気持ちが表現できる児童が増えてきている。	A	児童が自己の生き方についての考えを深められるよう家庭や地域社会との連携を図っていく。また集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成を図れるよう教育課程を編成していく。
		〇いじめを許さない心情を育て、いじめの早期発見解決に努める。	〇年3回の学校生活アンケートにみんながよりよく生活できるように関する項目を追加設定し、実施する。	4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。	4	4 学級生活満足群が50%以上 3 学級生活満足群が40%以上 2 学級生活満足群が30%以上 1 学級生活満足群が30%以下	3	校内研究と関連させ、2回の結果から数値による分析をし、各学年間で情報共有をしたり、具体的な改善策を検討したりする。結果を児童や保護者にフィードバックできるように準備を進めている。	最重要な課題であると考えている。改善策を検討するだけでなく、早期に対応し、当該の方々にフィードバックして見守りを強化してほしい。	B	生活指導主任を中心に、引き続き「学校生活アンケート」を行っていく。そしていじめの原因となるものや子供たちの悩みを早期に発見し早期に解決できるよう、アンテナを高く学校全体で見守る体制を続けていく。
健やかな体	〇自分の心と体の健康に関心をもち、基礎的な体力と心身の育成と向上を図る。	〇児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。	〇体力向上プロジェクトや短なわや長なわの取組を実施し、運動することの楽しさやよさを味わわせる。	4 全教員が計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った。	4	4 調査結果が昨年比平均ポイントから+2ポイント以上 3 調査結果が昨年比～+2ポイント 2 調査結果が昨年比-2ポイント以内 1 調査結果が昨年比-2ポイント以下	2	年間を通して運動委員が体力向上プロジェクトとして体力テスト種目の測定や長なわ、短なわの取組を企画・運営し、全校児童が体を動かすきっかけを与えることができた。次年度は体力テストの結果にも結び付けよう検討を進めている。	運動と健康は生涯にわたって関わることだと考える。ダンスを取り入れるなどして、体を動かすことの楽しさを伝え続けてほしい。	B	年度はじめに前年度の体力テストの結果を教員間で共通理解をする場と時間を設定する。そして、体育主任を中心に学校全体で底上げが必要な体力や学年の実態に応じた課題を共有する場を設定し、改善に努める。
		〇規則正しい生活と健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	〇毎学期実施する「すまいるカード」の取組の結果を集計し、その結果を集計・分析し、日々の指導改善に努める。	4 全教員が計画的な指導を実施した。 3 80%から100%未満の教員が計画的に指導した。 2 70%から80%の教員が計画的に指導した。 1 70%未満の教員が計画的に指導した。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している。 3 80%～90%未満の児童が目標を達成している。 2 70%～80%未満の児童が目標を達成している。 1 70%未満の児童が目標を達成している。	2	生活指導部と養護教諭を中心に、年間指導計画の実施を心掛けた。すまいるカードの取組を通して、結果や取組に関する内容を記載したお便りを全校に配布をし、家庭にも重要性を発信する。	規則正しい生活については、家庭の役割が大きいため、今後はより啓発に取り組んでほしい。	B	生活指導部と養護教諭を中心に、すまいるカードの取組を通して、結果や取組に関する内容を記載したお便りを全校に配布する。また、家庭にも重要性を発信するだけでなく、子供たちへも養護教諭を中心に健康教育を進めていく。
		〇食に関する望ましい食習慣の形成を促進する。	〇学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が食育計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。	4	4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している。 3 80%～90%未満の児童が食育のめあてを達成している。 2 70%～80%未満の児童が食育のめあてを達成している。 1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している。	3	2学期のお弁当の日の取組状況から、児童の食育のめあてに対する達成度が90%以上と分かった。栄養士と食育担当を中心に、さらに充実を図っていく。	食は、生活の根本であるため、今後も継続して「食べること」の指導を充実してほしい。	A	お弁当の日の取組や「お弁当チャレンジカード」を通して、だれもお弁当作りに関わる機会を設定する。また、食への興味関心を高められるよう高学年の家庭科の学習とも関連させながら食育を進めていきたい。
輝く未来	〇子供たちが自立し、未未来社会を切り開くための資質能力を身に付け、多様な人との関わりの中でコミュニケーション能力の育成を図る。	〇幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	〇幼保小中連携教育の推進を図るとともに、学年始めに「キャリアアルバム」を作成し、目標をもって生活を送れるようにする。	4 全教員が方策を実施した。 3 80%～100%未満の教員が方策を実施した。 2 70%～80%未満の教員が方策を実施した。 1 70%未満の教員が方策を実施した。	4	4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる。 3 80%～90%未満の児童が安心して進級・進学できる。 2 70%～80%未満の児童が安心して進級・進学できる。 1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる。	3	キャリアアルバムでは、各学期の始めと終わり、それぞれの行事の始めと終わりに目標や振り返りを書き、子供たちの成長を記録して積み重ねができ、年々定着してきている。	地域の方々をより活用したり、異学年交流をしたりして自分と違う立場の方との交流を通して考えを深めてほしい。	B	幼保・小中の引き継ぎと連携を教員同士が密にしていだけでなく、幼稚園保育園の小学校見学や6年生による中学校見学など、子供たち自身が交流したり見学し合ったりする場を今後も設定していく。
		〇教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	〇文化、スポーツ、高齢者、外国人、地域工場・店舗等での学びの場を各学年設定する。	4 全学年の教員が交流体験を実施した。 3 80%～100%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 2 70%～80%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している。 3 80%～90%未満の児童が目標を達成している。 2 70%～80%未満の児童が目標を達成している。 1 70%未満の児童が目標を達成している。	3	全学年が文化やスポーツなどについて外部人材と交流体験を行うことができた。	地域の方やスポーツ団体を積極的に活用していてよかった。今後も外部の方々との交流を企画してほしい。	A	児童の実態に合わせ、ゲストティーチャーを招いた授業や地域の方々と交流できる活動を引き継ぎ行っていく。また6年生のTGGのように海外の方とも交流できる機会を増やしていきたい。
		〇家庭・地域の声を活かすとともに学校の教育活動を情報発信していく。	〇学校HPや学校だより等を通じて保護者や地域に向けて児童の活動等を発信したり、行事や学校公開の際にアンケートを取り、改善を図っていく。	4 各行事の実施を受け、毎月ホームページを更新した。 3 各行事の実施を受け、学期に3回ホームページを更新した。 2 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した。 1 各行事の実施を受け、学期に1回ホームページを更新した。	4	4 80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 3 50%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 2 20%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 1 20%未満の保護者が教育活動への理解を示している。	4	市のアンケート結果の教育活動に関する項目の回答を計算すると平均8割で昨年度より15%向上している。職員で共有し次年度に向けての取組を今後検討していく。	よく発信できていると思う。今後も地域や外部に教育活動を発信することで、より地域に開かれた学校を目指してほしい。	A	今年度に引き続き、学校の様子をホームページ等で発信していくだけでなく、行事や学校公開を通して得られた保護者や地域の方々の声に耳を傾け、教育活動の改善に努め、より一層の充実を図る。

令和6年度

昭島市立中神小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	◎よく考える子(すすんで学び考え、あきらめずに問題に取り組む子ども) ◎心豊かな子(やさしい心で、自分も他人も大切にすること) ◎たくましい子(すすんで体を鍛え、粘りつよく行動する子ども)	ビジョン	【目指す学校像】	○すべての子どもの良さ・可能性を伸ばし、自己肯定感を育てる学校
			【目指す児童・生徒像】	○自己肯定感をもって自己発揮でき、自分も他人も良さが分かり、大切にできる子ども
			【目指す教師像】	○様々な教育課題に適切に対応し、経営参画意識をもって職層に応じた役割を果たしながらチーム力を高めることができる教師集団

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	課題解決的な学習展開による探究的な学びの充実	生活科・総合的な学習の時間においてカリキュラム・マネジメントにより教科で習得した力や見方を発揮して課題解決に取り組む。	児童の資質・能力を教科間の連携で育成し、主体的・対話的で深い学びを展開する。	4 全ての単元で実施した。 3 14分の3以上の単元で実施した。 2 2分の1以上の単元で実施した。 1 2分の1未満の単元で実施した。	4	4 全学年の定着率が90%以上 3 全学年の定着率が80%以上 2 全学年の定着率が70%以上 1 全学年の定着率が70%未満	4	各学年の実践で教科横断的な学習を図りつつ、児童が主体的に活動する実践を展開することができた。	研究発表を通した「結育」で地域とつながり、児童、教職員の主体性が高まり、全ての方向でプラスに向かっている。	A	児童への課題意識のたせ方についての研究を深め、「デジタルを活用したこれからの学び」の実践につなげる。
		基礎的な知識・技能の習得とのバランスを取りながら、すすんで学び考え、諦めずに問題に取り組む態度を養う。	積極的に学習に取り組むことを通して自分の苦手分野を知り、解決や克服の努力をすることで学びを深めるようにする。	4 全教科・領域で実施する。 3 90%以上の教科・領域で実施する。 2 80%以上の教科・領域で実施する。 1 実施した教科・領域が80%未満である。	4	4 学びが深まったと思える児童が80%以上 3 学びが深まったと思える児童が70%以上 2 学びが深まったと思える児童が60%以上 1 学びが深まったと思える児童が60%未満	3	ベーシックドリルの分析や補習教室での取組、全国学力・学習状況調査の分析を通して基礎的な知識・技能の習熟の課題と方法について共通理解を図ることができた。	授業参観の様子から、学年での話合いや教材研究、協働実践などに更に注力する必要性を感じた。	B	計算の技能、漢字の習得のためのドリル学習の見直し、評価規準に沿って指導と評価の一体化を図り、より一層の習熟を目指す。
		「分かる・できる・楽しい」授業づくりに努め、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	学んだことを生かした対話・アウトプットを豊かに取り入れ、個々の知識・技能を活用できるようにする。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が80%以上 3 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が70%以上 2 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が60%以上 1 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が60%未満	4	「学校の授業は分かりやすい」と答える児童は92%、「授業を工夫している」「学力を身に付けさせている」と答えた保護者はともに91%にのぼった。	教科担任制も検討しつつ、個々の教員が授業力を向上させるべく、教員相互の研鑽が求められる。	A	一定の割合で基礎・基本の習熟に困難さのある児童がおり、指導方法の更なる検討、支援員の有効配置などの手立てを継続する必要がある。
		人権尊重の精神に基づき、いじめのない学級、いじめがなく毎日安心して登校できる学校づくりを行う。	様々な個性が認められる学級づくり、気持ちのよい挨拶や言葉掛けを互いに行い、安心感のある学校を児童とともにつくる。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 すすんで活動に取り組んだと思える児童が90%以上 3 すすんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上 2 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上 1 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満	3	代表委員会のいじめ防止の取組や小中一貫いじめサミットへの参加、中学校と協働で取り組んだ挨拶運動を通して安心して登校できる学校づくりを推進することができた。	児童一人一人が楽しく学校生活を送れることが大事である。相談できる大人がいらないという児童を0にしたい。	B	今後も教職員の人権意識を向上させ、児童が「通いたい」、保護者・地域が「通わせたい」学校づくりを継続する。
		偏見と差別を許さず、多様性を認め合う人権教育を推進する。	道徳教育との関連を図りながら全学年において障害者理解を進める。	4 全学級が道徳教育との関連を図っている。 3 全学級で事前指導、事後指導を行っている。 2 全学級で事前指導を行っている。 1 障害者理解の授業のみを行っている。	4	4 障害者との共生を具体的に理解した児童が90%以上 3 障害者との共生を具体的に理解した児童が80%以上 2 障害者との共生を具体的に理解した児童が70%以上 1 障害者との共生を具体的に理解した児童が70%未満	4	毎月の職員会議で人権研修を行い、教職員の人権感覚を高めた。また体験活動を通した障害者理解を図ることができた。	一人一人の違いを認め合うことを大切にしてほしい。その延長として障害者理解を一層進めてほしい。	A	本校の特色ある取組である体験を通した障害者理解教育を今後も継続し、人権教育を推進する。
		思いやりと人やもの・こととの関わりを豊かにする教育を推進する。	言語活動の充実、読書指導の充実を図り、自己肯定感の醸成と豊かな心を生み出す風土を築く。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 すすんで活動に取り組んだと思える児童が90%以上 3 すすんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上 2 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上 1 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満	3	詩の暗唱朝会、読書指導の充実を通して思いやりの醸成、よい聞き手の育成を図ることができた。	更に言語活動の取組を全ての教科を通じて重点的に行うということも大切である。学力向上の柱ともなり得る。	B	互いの個性を認め合い、協力して目標を達成するということを生活面、学習面で展開し、自己肯定感を高めていく。
健やかな体	総合的な体力向上と日常的な健康教育の重視を図りながら、心身ともに健康な子どもを育てる教育	総合的な体力向上と日常的な健康教育の充実を図る。	授業や体育的行事を充実させ、目標をもって自己の体力を向上させる児童を育成する。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 「よく体を動かしている。」児童が80%以上 3 「よく体を動かしている。」児童が70%以上 2 「よく体を動かしている。」児童が60%以上 1 「よく体を動かしている。」児童が60%未満	4	昨年度の体力調査の分析を基にした取組と今年度の体力調査の分析を基にした課題の設定をすることができた。	体育の授業はもとより、休み時間に外で体を動かして思い切り遊ぶ機会が増えるといい。	A	瞬発力の向上を本校の重点課題として、体育科の授業の充実と体力向上の取組を行っていく。
		自分の身は自分で守り、困難を乗り越えるたくましい心を育む。	自己の体力を知り、めあてをもって努力する気持ちや危険を回避する能力を体力向上の取組の中で養う。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 困難を乗り越えたと思える児童が90%以上 3 困難を乗り越えたと思える児童が80%以上 2 困難を乗り越えたと思える児童が70%以上 1 困難を乗り越えたと思える児童が70%未満	3	危険を予測し、回避する能力が十分に育っていないかったことによる事故や怪我が解消されていない。	運動会や持久走の取組のように目標をもって自分の体力を高める指導を続けてほしい。	A	安全指導の中でも、「生活安全」についての指導に力を入れ、児童の意識向上を図る。
		心身ともに健康な子どもの育成を図る。	体幹を意識した運動や食育指導の取組を通して心身の健康を保つ大切さを理解し、すすんで取り組む。	4 全学級が取組を行っている。 3 11学級以上が取組を行っている。 2 9学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 すすんで取り組む児童・家庭が90%以上 3 すすんで取り組む児童・家庭が80%以上 2 すすんで取り組む児童・家庭が70%以上 1 すすんで取り組む児童・家庭が70%未満	4	年間を通して体幹を意識したトレーニングを継続して行った。	健康管理、体力向上を意識した生活態度、生活習慣が児童に身に付くとよい。食育指導の更なる具体的取組がほしい。	B	日常生活でもトレーニングを行うよう習慣付ける。各教科と関連させて食育指導も展開し、得たものを家庭でも生かせるようにする。
	輝く未来	郷土昭島に対する愛着や誇りをもち、積極的に良さを発信する子どもを育成する。	地域の素材や人材の活用、伝統文化、自然との関わりから昭島の良さを捉え、積極的に発信できるようにする。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が90%以上 3 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が80%以上 2 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%以上 1 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%未満	4	年間を通して各学年で地域の素材や人材の活用を図りながら実践を深めることができた。	児童が地域社会に目を向け、関心をもつよう取り組んでいただいているのありがたい。継続してほしい。	A	地域の既存の組織の活用を継続し、積極的に児童から郷土昭島の良さを発信するようにする。
		SDGsを「実社会・実生活」を見る窓として捉え、他者及び自然環境との関係性を認識できるようにする。	自分が学習していること、学習して得たことが「実社会・実生活」とどのように関わるかを理解できるようにする。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	3	4 関係性を認識できたと思える児童が90%以上 3 関係性を認識できたと思える児童が80%以上 2 関係性を認識できたと思える児童が70%以上 1 関係性を認識できたと思える児童が70%未満	3	地域での宣伝活動を通して学習していることが「実社会とつながっていること」を意識させることができた。	学年に応じて目を向ける社会の領域を着実に広げているよう、指導をお願いしたい。	B	地域の商店や団体での体験活動、学校行事の協働運営を通して児童が実社会とのつながりをより一層意識して学習できるようにする。
		地域や保護者の願いを教育活動に取り入れ、「地域とともにある学校づくり」を推進する。	多様化するニーズに応えながら教育活動を進め、地域社会構築への参画を図る児童を育成する。	4 全学級が参画を考えさせている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 参画を考えさせた学級が10学級未満である。	4	4 90%以上が実践意欲を抱いた。 3 80%以上が実践意欲を抱いた。 2 70%以上が実践意欲を抱いた。 1 実践意欲を抱いた児童が70%未満。	3	体験活動や宣伝活動、保護者・地域の参観を通して「地域とともにある学校づくり」を推進した。	学校と保護者・地域が協力して児童の地域への参画意識を高められるようにしていきたい。	B	学校と自治会や青少年委員、青年の会などの組織とのより効果的な連携の仕方を模索し、実行する。保護者への呼び掛けも行う。

令和6年度		昭島市立つつじが丘小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	だれもが笑顔になる学校	ビジョン	【目指す学校像】	○楽しい学びの共同体	
			【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子	
			【目指す教師像】	○当事者意識をもって学校づくりを行う教師 ○組織で考え、組織で動くことができる教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標			評価	成果指標			評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う、主体的・対話的な学びの実現	教員一人一人が課題意識をもって主体的に取り組む校内研究(特別活動)を充実させ、授業力の向上を図る。	主体的な授業改善を図るために、教員それぞれが抱える課題の改善に向けて、学期ごとに行う授業観察を実施し、その都度検証する。	4	90%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。	4	4	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が95%以上	4	全ての教員がそれぞれに視点をもって授業改善に取り組んだことで、多くの教員が授業力の向上を実感した。それに応じて児童アンケートの授業の内容についての評価も95%が肯定的評価となった。	教員の努力が児童にも伝わっているのはすばらしい。	A	今後も児童が分かりやすい授業を実施し続けられるように、校内研究を通じて授業改善ができる計画を組んでいく。校内研究における特別活動のさらなる充実と教科等授業の日常的な相互参観とOJT。		
		3	85%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。	3	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が90%以上		3	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が90%以上							
		2	80%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。	2	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が85%以上		2	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が85%以上							
1	80%未満の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。	1	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が70%未満	1	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が70%未満										
	学ぶことの楽しさを実感させる授業を積み重ね、主体的、対話的で深い学びによる学力向上を推進する。	GIGA端末やICTを利用した授業スタイルを確立し、児童自身に課題意識をもたせて対話的な学びを進める。個別最適な学習を展開していく。	4	8割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。	4	児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が90%以上肯定的	4	児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が90%以上肯定的	4	一人1台端末が定着し、児童が自分に合ったツールを選択して学習する姿も現れている。複数学級が同時にアクセスすることや端末の経年による劣化(特にバッテリー)など、ハード面での課題は引き続き大きい。	ハード面での改善を、地域としても市に働きかけを。	A	ハード面は地域や市と連携して解決を図りながら、児童がタブレットを文房具と同様に使用できるように端末の活用を進める。自由進度型の活用と対話型の活用を効果的に進める。ICT教育の情報交換を行う。		
	児童の学力を把握し、実態に即した授業改善を行うことで、学力の向上を図る。	授業改善推進プランを活用したり、単元ごとの3観点評価を計画的に行ったりすることで、指導と評価の一体化を意識した授業を実践する。	4	90%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。	4	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が95%以上	4	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が95%以上	4	授業改善推進プランの作成を通して、各学年で児童の学習状況に応じた授業改善を計画・実施することができた。そして、児童の授業内容の理解につながっていることが児童アンケートの結果から分かる。	今後も児童が授業内容を理解し、いけるよう継続してほしい。	A	授業改善推進プランを活用しながら、児童の学習状況や実態に合わせて授業改善を計画・実施する。学力調査の結果分析により、課題を明確化し、改善のポイントを共有するとともに、授業改善推進プランに反映させる。		
豊かな心	自分と共に他者を大切に する態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成	自発的に挨拶をする態度を養い、挨拶が自然に通い合う学級、学校をつくる。	年度内の学校生活目標に3度ほど挨拶を取り上げたり、児童会を中心とした挨拶運動に取り組ませたりして、挨拶指導の強化を図る。	4	全教職員が日常的に指導した。	4	4	児童アンケート「自分から挨拶」が90%以上	3	挨拶の大切さについては、日常的に指導を継続しており、どの児童も理解している。一方で、実際に行動に移せるかどうかは個人差が大きい。また、挨拶をする相手が親しい相手に限定される児童もいる。	朝の見守り隊から見ても、挨拶ができる子・できない子の差がある。「おはよう」「こんにちは」という基本の挨拶ができるようにしたい。	B	年度末には、感謝の会を開き、お世話になった方への感謝の気持ちをもち、よい指導する。来年度も引き続き、挨拶の意義を伝えるとともに、日常的な指導を行っていく。日常的な事例を用いた学級指導や全体での指導を継続する。		
		3	90%以上の教員が日常的に指導した。	3	児童アンケート「自分から挨拶」が80%以上		3	児童アンケート「自分から挨拶」が80%以上							
		2	80%以上の教員が日常的に指導した。	2	児童アンケート「自分から挨拶」が70%以上		2	児童アンケート「自分から挨拶」が70%以上							
1	80%未満の教員が日常的に指導した。	1	児童アンケート「自分から挨拶」が70%未満	1	児童アンケート「自分から挨拶」が70%未満										
	組織的な道徳教育の推進により、児童一人一人が自らを振り返ることで、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。	道徳教育の全体計画や年間指導計画を見直し、道徳推進教師を中心に、道徳科の授業改善と道徳授業地区公開講座の実施を計画する。	4	90%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。	4	児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が95%以上	4	児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が93%以上	4	日々組織的な道徳教育の成果が出ており、児童は自他を大切にしながら生活することができている。コミュニケーション能力に課題があり、思いはあるが実践に結びつかない児童も一定数いる。	* 特記事項なし	A	今年度同様、全ての教育活動を通して計画的な道徳教育を実践していく。来年度は、特に実践力につなげていく指導に力を入れていく。学年内のローテーション・道徳の授業等により、道徳科の授業改善を進める。		
	心の安全を保障する指導体制を確立し、児童一人一人が安心して、過ごすことができる学校にする。	人権教育プログラムやいじめ総合計画に基づいた組織的な取組により、月に1回以上いじめ対策委員会を開く。また、年に3回以上いじめに関する授業を実施する。	4	全教員が3回以上いじめに関する授業を行った。	4	児童アンケート「いじめは許さないこと」が95%以上	4	児童アンケート「いじめは許さないこと」が93%以上	4	教員、児童どちらも人権意識が非常に高い。そのため、いじめの件数は少ないが、いじめの定義は理解していても、いじめを行ってしまって初めて気付く児童がいるという実態もある。	* 特記事項なし	A	いじめに関しては、何よりも高い意識をもち、全職員で一元となって早期発見、早期対応にあたる。また、組織で対応することを共通理解し、一人の教員が抱え込まないようにしていく。人権教育プログラムに即しいじめ防止研修を年3回以上を行う。		
健やかな体	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	昨年の体力調査の結果分析から、筋持久力と走力、敏捷性に課題があることが分かった。敏捷性の向上をテーマにし、元気アップガイドブックの運動内容を参考にして、元気アップタイムを実施する。	4	全校児童が参加した。	4	4	体力テストの結果で4学年以上が敏捷性で市平均以上	2	元気アップタイムや体育の授業を通して、運動に親しむ機会を設定した。しかし、課題である敏捷性が学校全体として向上しているわけではない。児童自ら運動の機会を増やすように、敏捷性向上につながる運動遊びを発信していく必要がある。	走る・投げるなどの基本動作を、授業の中で向上できると良い。また、講師を招いての授業や縦割り班での外活動を増やしても良いのではと感じる。	C	体育の授業の中で、走る・投げるなどの基本動作を最初の準備運動に取り入れられるように、運動例を全体で共有し、全学級で実施していく。体力調査の結果分析による課題の明確化と取組内容の改善を担当分掌を中心に行い、取組の継続と改善を進める。		
		3	90%以上の児童が参加した。	3	体力テストの結果で3学年以上が敏捷性で市平均以上		3	体力テストの結果で3学年以上が敏捷性で市平均以上							
		2	80%以上の児童が参加した。	2	体力テストの結果で2学年以上が敏捷性で市平均以上		2	体力テストの結果で2学年以上が敏捷性で市平均以上							
1	70%以上の児童が参加した。	1	体力テストの結果で2学年未満が敏捷性で市平均以上	1	体力テストの結果で2学年未満が敏捷性で市平均以上										
	基本的な生活習慣を定着させ、児童の健康意識の向上と日常的な行動を促す。	元気アップガイドブックや保健便り、給食便りを活用して生活リズムカード(グッドモーニング60)に取り組む。児童が自身の生活の振り返りを行う。	4	全学級で記録と振り返りを行った。	3	児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う」95%以上	3	児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う」90%以上	3	生活リズムカードを年に3回実施し、児童と保護者が生活の振り返りを行う機会をつかった。課題になっている点については、改善のヒントを保健だよりに掲載し、児童が生活を見直せるようにした。	取組は大変良いものだと思う。保護者へのはたらきかけが課題を整えていく。改善のヒントのお知らせを継続していく。	B	生活リズムカードの実施と改善のヒントを掲載していることを引き続き継続していく。また、保健の授業などでも、各学級で生活を整えていくことの重要性を指導していく。グッドモーニング60分の益々の意識化、継続化を図り、生活リズムの定着を目指す。		
	児童の危険予知能力を育成し、危険を回避する能力を向上させる。	安全教育プログラム等を活用した安全指導を日常的に行う。また、事前に十分指導した上で、予告なしの避難訓練を毎月実施する。	4	全教員が日常的に指導を行った。	4	児童アンケート「安全や健康についての知しきき生活の中で生かしている」が90%以上	4	児童アンケート「安全や健康についての知しきき生活の中で生かしている」が85%以上	3	毎月予告なしの避難訓練や安全指導を行っている。ただ、それが当たり前になりすぎていて児童の中で実感がないと思われる。安全指導についての体験や実感が生まれる取組を模索することが課題である。	当たり前でも訓練が継続できており、評価できる。過去の震災の記録など今後も児童にせて伝えていってほしい。	A	避難行動については身に付いている。今後はさらに、どうしてその行動が必要なのか考えて避難することや、実際の避難場面を具体的にイメージしながら訓練に取り組めるように指導していく。安全指導の見直しを進め、避難訓練の設定の変更を行う。		
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら自己実現を図ったり、より良い人間関係を形成したりできるようにする。	児童が自主的に活動できるように、「特別活動 大人の10の流儀」を意識し、学級会を軸とした話し合い活動を充実させる。	4	全教員が話し合い活動を充実させた。	4	4	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が95%以上	2	学級会をはじめとする教職員での学び合い、各学級で話し合い活動を積極的に実施した。児童主体の話し合いが定着してきた一方で、話し合いに参加できていない児童が一定数いる。各学級での課題を共有し、手立てを講じていく。	* 特記事項なし	B	学級会を活発にするための手立てを教員が理解し、実施してきた。来年度も引き続き積極的に学級会を行っていく。また、学級活動だけでなく、委員会やクラブ、縦割り班活動にも力を注いでいく。		
		3	90%以上の教員が話し合い活動を充実させた。	3	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が90%以上		3	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が90%以上							
		2	80%以上の教員が話し合い活動を充実させた。	2	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%以上		2	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%以上							
1	70%以上の教員が話し合い活動を充実させた。	1	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%未満	1	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%未満										
	児童と教職員とが知恵を出し、工夫した学校行事を生み出し、児童に達成感や連帯感、自己有用感をもたせる。	児童会や実行委員会活動を活性化し、児童が主体的に取り組めるスポーツ及びアートフェスティバルの計画を立て、実施する。	4	90%以上の児童が楽しく参加した。	4	児童アンケート「行事の満足度」が90%以上	4	児童アンケート「行事の満足度」が80%以上	4	たてわり班活動を各行事に取り入れ、全校遠足を行ったことで、異学年での交流機会が増え、互いに認め合える関係性が築け、行事の満足度が高まった。たてわり班活動を継続し、児童主体で取り組むことができるように実行委員の充実を図っていく。	たてわり班活動の良さを充分に発揮できている。	A	各行事で、たてわり班活動を取り入れたことで、たてわり班での関わりが深まった。来年度も継続してたてわり班活動を取り入れていく。「大人の10の流儀」の周知徹底により、実行委員会による学校行事の主体的な企画、運営を後押しする。		
	体験的な学習を意図的に計画し、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせる。	ゲストティーチャーや出前授業等、人と関わる体験的活動を計画的に実施する。また、コミュニティスクールの利点を生かし、地域の学習材を各学年で活用する。	4	全学年が体験的活動を実施した。	3	児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が98%以上	3	児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が95%以上	3	単元計画に合わせて、外部人材を活用した特別授業を実施し、実際に見たり、体験したりする経験を通して、児童の興味関心が高まり、学びが深まった。各学年で活用した外部人材を記録し、次年度に引き継ぐ。	外部人材の活用は大変有効である。今後、地域の人材もぜひ活用してほしい。	B	今年度活動した外部人材を来年度も取り入れていくように引き継いでいく。また、様々な特別授業を取り入れることで児童が分かりやすい授業を目指していく。生活総合の年間指導計画の見直しを実践を通して行う。		

令和5年度		昭島市立光華小学校		学校経営重点計画(教育推進計画) 年度末評価【総括表】	
学校教育目標	◎すすんでする子 ○健康な子 ○考える子 ○協力する子	ビジョン	【目指す学校像】	子供一人一人の『幸せ(ウェルビーイング)』を具現化する学校＋教職員一人一人の『働きがい』を具現化する学校	
			【目指す児童・生徒像】	どの共同体でも力を発揮できる子(2030/2040年の日本を生きる子供たちへ) cfエージェンシー(社会を変革する力)の育成	
			【目指す教師像】	子供の幸せを念頭に、教育者としての熱意とスキルを併せ持つ教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	主体的な学びの喜びを通して、児童・教師が「光華遊学」の成果を実感する	知的好奇心の向上	・面白いを重視した授業づくり ・児童の視野を広げる工夫 ・対話的な学びの充実	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしていると回答	4	光華遊学の具体化が児童に伝わってきた結果と認識している。	ブレーパークの取組が好奇心の向上、他者との協働に好影響。対話的な学びがまだ不十分ではないか。	B	次年度も教科内に留まらず、学校生活全体で好奇心を高めていきたい。言語化し協働するスキルが課題。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしていると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしていると回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしていると回答					
		問題解決型学習の推進	・主体性を引き出す課題設定 ・解決の見通しを重視 ・適切なまとめ方・表現を重視	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答	4	光華遊学の趣旨が教師に浸透し始めた結果と認識している。	新たな学びのスタイルを通じて面白そう、やりたいを実現する学習活動が推進されている。5つのステップを大切にし、自ら問題設定・解決できる力の育成を。	A	3つの学びのスタイルごとにPBLの重点化が見えてきた。この浸透と具現化を図っていきたい。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答					
		教育DXの推進	・教師自身のスキル向上 ・情報リテラシー教育の推進 ・積極的なICT活用	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童がタブレットは役に立つと回答	4	ICT担当者を増やしたこと、研修が即時活用できる内容であったことの結果と認識している。	DX推進の実情は不明だが、学校評価からは十分な成果を感じる。情報リテラシーの充実と教師間の差が出ない工夫を。	B	まずは教師のDX活用推進を図るため、実働性・即効性ある研修を重ねたい。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童がタブレットは役に立つと回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童がタブレットは役に立つと回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童がタブレットは役に立つと回答					
豊かな心	多様な見方・考え方を働かせ、自ら楽しさ(ワクワク・ドキドキ)を見い出す心のクセを身に付ける	多様性を認め合う心の醸成	・聞く力・態度の育成 ・特別支援教育の推進 ・人権感覚の育成	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答	4	遊びの中での相互承認、特別支援教育の浸透が結果につながっている。	全校での授業公開の際、全児童が耳を傾けていたことに本項目の成果を感じた。さらに特支教育充実も感じる。	A	最重要課題の一つとして位置付け、全教育活動の基盤として、意図的に児童に浸透させていく。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
		感性を豊かにする教育の充実	・読書活動の充実 ・個々の感性を重視 ・体験活動の充実	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が「本や音楽や園工、自然が好きです」と回答	4	児童の内面を重視し、音楽とも連携した展覧会がこの結果に一役つながっている。	メダカや野菜を題材にした学習が本項目につながったと思う。読書活動が見えにくい。読書・芸術の推進を。	B	感性の育成という視点でも次年度予定の音楽会の充実を図る。特に鑑賞を重視したい。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「本や音楽や園工、自然が好きです」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「本や音楽や園工、自然が好きです」と回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童が「本や音楽や園工、自然が好きです」と回答					
		最後まであきらめない心(レジリエンス)の醸成	・児童主体の活動保証 ・形成的評価の充実 ・継続的な活動の工夫	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が決めたことは最後まで頑張りが続けることができると回答	3	この醸成に具体策が見いだせなかったが、年度末反省を通し次年度への方向性が定まり始めている。	私の学校は私が作る精神を高くだせなかったが、年度末反省を通し次年度への方向性を感じている。	A	この育成の基盤を「自己理解」とする。段階的な自己理解促進がレジリエンスにつながるか検証したい。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が決めたことは最後まで頑張りが続けることができると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が決めたことは最後まで頑張りが続けることができると回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童が決めたことは最後まで頑張りが続けることができると回答					
健やかな体	自らの健康を保持・増進する生活習慣の定着	体を動かす喜びの実感(「遊び」の重視)	・体育の授業改善 ・元気アップガイドブック活用 ・元気アップタイムの推奨	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしていると回答	3	例年より運動遊びの機会を増やしたが、教師・児童の実感につながっていないのかもしれない。	体育の授業改善が見えにくい。健康な体は健康な精神を育むことを念頭に取り組んでほしい。	B	次年度も遊びの重視を基盤とする。元気アップの動画も試行していきたい。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしていると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしていると回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしていると回答					
		生活習慣の改善	・GM60の推進 ・SNSルールの推進 ・食育の推進	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしていると回答	3	評価に関わらず、どの項目も継続的に重視していく。	児童の変容が見えにくい。挨拶は基本であり、さらに家庭の協力を仰ぎたい。	B	GM60、SNSルール、食育の重視は継続する。食の循環を校内で実施したい。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしていると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしていると回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしていると回答					
		自他の「性・生命」の尊重	・いじめ防止の推進 ・安全(交通・生活・災害)教育の推進 ・SOSの出し方教育推進	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活していると回答	4	評価に関わらず、どの項目も継続的に重視していく。	SNS等見えにくいイジメに細心の注意を払ってほしい。清泉こどもサミット等、中学校区全体の取組は大変素晴らしい。	A	SOSの出し方教育をいじめ防止、不登校対策などの基盤とする。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活していると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活していると回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活していると回答					
輝く未来	非認知能力の育成	「自己肯定感」の向上	・まずやってみる習慣の推奨 ・役に立つ喜びの重視 ・個のよさを伸ばす取組	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答	4	まずやってみよう、という校内の空気感が浸透してきたことが結果につながっている。	他者のための行為が自信を高める。校長室に直談判に来る児童の姿も本項目の成果と感じる。	A	光華遊学の先に自己肯定感があると信じる。教科内だけではなく、学校全体の空気感を高める。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答					
		他者や地域と「つながる」喜びの実感	・外部人材の活用 ・行事への主体的な参加 ・自ら企画する機会の保証	4 概ね3項目に取り組むことができた	2	4 90%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答	4	外部人材の活用は学年差が出ているが、評価以上のつながりがあったと認識している。	外部人材の活用は大賛成。こどものまちづくりなど、地域への提案も見てみたい。	A	地域コーディネータの活用を定着させる1年間としたい。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答					
		自己を見つめる力の醸成	・キャリアルバムの活用 ・道徳の授業改善 ・学習の自己評価活動	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が「自分の考えを大切にしていると回答	4	保護者面談でのキャリアルバム活用は定着してきた。日常的な自己評価活動の充実が課題である。	この評価は大変難しい。道徳の時間を通した教育に期待したい。キャリアルバムの日常的な活用推進を。	B	自己理解として、これまで以上に重視し、具体化を図る。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「自分の考えを大切にしていると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「自分の考えを大切にしていると回答					
				1 全く取り組みなかった		1 60%以上の児童が「自分の考えを大切にしていると回答					

令和6年度		昭島市立成隣小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】	人も自分も大切に、みんなが輝く成隣小	
			【目指す児童・生徒像】	互いを認め合い協力し合いながら課題を解決し、児童一人一人が前向きに学校生活を送っている。	
			【目指す教師像】	自身の知識・技能の向上に努め、学校の実践力、「チーム成隣」としての組織力を向上させている。	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	◎主体的に学習に取り組む児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実させる。	①学習のめあての提示 ②振り返りを実施 ③ICT機器の活用	4 全ての教員が、児童が主体的な授業を行った 3 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った 2 7割の教員が、児童が主体的な授業を行った 1 児童が主体的な授業を行った教員が7割以下であった	4	4 児童アンケート「すすんで学習」9割以上 3 児童アンケート「すすんで学習」8割以上 2 児童アンケート「すすんで学習」7割以上 1 児童アンケート「すすんで学習」7割未満	4	学習のめあての提示や振り返りの定着ができてきた。OJT研修でタブレット端末の活用に取り組んだ。	めあての提示は学習意欲につながる。タブレットの活用はとても良い。	A	ICTのより一層の推進。
		質の高い個別指導・家庭学習を行う。	①家庭学習チェック表を活用 ②児童一人一人の個別対応を工夫 ③保護者会での周知	4 保護者会での周知と個別の対応を全12学級で実施した。 3 保護者会での周知と個別の対応を11学級で実施した。 2 保護者会での周知と個別の対応を10学級で実施した。 1 保護者会での周知と個別の対応を9学級以下で実施した。	4	4 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価8割以上 3 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価7割以上 2 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割以上 1 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割未満	2	家庭学習のチェック表活用に取り組んだが、家庭学習の定着は十分ではない。	家庭状況がまちまちなので達成が難しいが、不断の努力を続けてほしい。	B	ICTを活用した個別最適の学習、家庭学習の模索。
		「昭島市立学校学校教育のユニバーサルデザイン」を活用した日常活動や授業における指導・支援を進める。	①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業	4 ユニバーサルデザインチェックリストの全てに取り組んだ。 3 ユニバーサルデザインチェックリストの8割以上に取り組んだ。 2 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以上に取り組んだ。 1 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以下にしか取り組めなかった。	3	4 児童アンケート「授業分かりやすい」9割以上 3 児童アンケート「授業分かりやすい」8割以上 2 児童アンケート「授業分かりやすい」7割以上 1 児童アンケート「授業分かりやすい」7割未満	3	ほとんどの学級でユニバーサルデザインに則った教室環境を整えることができた。	多様な対応をすることができている。引き続きの取組継続をしてほしい。	B	ユニバーサルデザインの一層の推進。
豊かな心	◎互いを認め、協力し合う児童の育成する。 ・児童の言語環境を整え、人権感覚を高める。 ・互いを認め合い、物事を共に創造する体験的な活動を重視する。 ・互に支え合う、よりよい関係を大切にした活動を重視する。	道徳科の授業を要とし、特別活動や学校行事の再考・再興を通して児童の人間力を育成する。	①児童に活動のねらいや目的を明確にもたせる ②事後に互いを認め合うことができる振り返りの場を設ける。	4 道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を全12学級で実施した。 3 道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を10学級以上で実施した。 2 道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を9学級以上で実施した。 1 道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を9学級未満で実施した。	4	4 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価9割以上。 3 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割以上。 2 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。 1 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満。	4	道徳科の特質に即した授業を推進し、縦割り班活動を中心とした特別活動を実施した。	子供たちが相手の気持ちになって考えることができていた。	A	ポストコロナに沿った特別活動や学校行事の再考と再興。
		児童が個々のよさを発揮して成長できる学級集団・学年集団を形成する。	①キャリア・パスポートの活用 ②QUテストの活用	4 全ての学級でQUテストの結果を活用した。 3 9割以上の学級でQUテストの結果を活用した。 2 8割以上の学級でQUテストの結果を活用した。 1 QUテストの結果を活用した学級が8割以下だった。	4	4 2回目のQUの結果で安定感のある学級が3割以上 3 2回目のQUの結果で安定感のある学級が2割以上 2 2回目のQUの結果で安定感のある学級が1割以上 1 2回目のQUの結果で安定感のある学級が1割未満	2	安定感ある学級が8学級中1学級にとどまった。他にゆるみのある学級2、不安定な学級5であった。	より良い学級を作る努力を継続してほしい。	B	QUテストの専門家に研修を依頼し、来年度の学級づくりの参考とする。
		児童の言語環境を整え、いじめ問題の未然防止と早期解消に全職員で取り組む。	①いじめ防止授業の実施 ②外部講師を招いてのいじめ防止研修会の実施	4 外部講師を招いての研修を年3回以上実施した。 3 外部講師を招いての研修を年2回実施した。 2 外部講師を招いての研修を年1回実施した。 1 実施できなかった。	3	4 社会通念上のいじめ件数の前年比2割以上の減少 3 社会通念上のいじめ件数の前年比1割以上の減少 2 社会通念上のいじめ件数の前年とほぼ同水準 1 社会通念上のいじめ件数の1割以上の増加	1	外部講師を招いての研修は予定通り実施。いじめに関しては増えており、高学年に集中している。	学校だけの問題ではなく、家庭・地域、みんなで取り組む必要がある。	C	支援員の増強、きめの細かいカウンセリングの実施、いじめ対策委員会の活用を推進、家庭地域との連携もすすめる。
健やかな体	◎心身を鍛え正しい判断で行動する児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	①体力テスト結果分析を行い、2学期以降の体育に反映 ②休み時間や放課後の外遊びが増えるよう声掛け	4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。	4	4 体力調査のA、B判定の児童が9割以上。 3 体力調査のA、B判定の児童が8割以上9割未満。 2 体力調査のA、B判定の児童が7割以上8割未満。 1 体力調査のA、B判定の児童が7割未満。	1	体力調査のA・B判定の児童は39%であった。しかし、体力調査の合計点では男子で4.6ポイント女子で1.7ポイント全国平均を上回った。	体力向上の取組についてもっとアピールしていく必要がある。	C	体力調査結果の分析をすすめ、体育授業へ反映させる。また、その様子を学校だよりに載せる。
		健康で安全な生活のために必要な生活習慣を身に付けさせる。	①元気アップガイドブックを活用 ②健康教育を推進	4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施した。 3 健康教育の授業を年2回実施した。 2 健康教育の授業を年1回実施した。 1 健康教育の授業を実施できなかった。	4	4 グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。 3 グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。 2 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。 1 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。	3	健康教育の授業、グッドモーニング60分の取組は予定通りに実施された。	健康習慣を身に付くように引き続きの取組を期待します。	B	引き続きグッドモーニング60分を推進していきたい。
		健康で安全な生活のために必要な食習慣を身に付けさせる。	①年3回食育の授業実施 ②指導内容を保護者に伝え、児童に対する家庭での働きかけを依頼	4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。	4	4 保護者アンケート「食育」肯定的評価7割以上 3 保護者アンケート「食育」肯定的評価6割以上 2 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割以上 1 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割未満	3	計画通りに食育を推進することができた。	食育の内容についてもっと知らせてほしい。	B	給食課と連携し、栄養士を授業に招くなどして食育授業を推進、周知にも力を入れる。
輝く未来	◎家庭・地域社会との理解を深め、地域の子供を育てる中心的な役割を果たす。 ・学校からの情報を積極的に発信する。 ・家庭や地域の声(期待・要望・批判)を活用する。 ・地域の教育資源や人材を活用する。	外部人材を活用した学習活動を計画的に行う。	ゲストティーチャー(GT)を活用した積極的に招聘する。	4 年2回以上GTを全12学級が招聘した。 3 年2回以上GTを11学級が招聘した。 2 年2回以上GTを10学級が招聘した。 1 年2回以上GTを9学級以下で招聘した。	1	4 学力調査「地域」肯定的回答9割以上 3 学力調査「地域」肯定的回答8割以上 2 学力調査「地域」肯定的回答7割以上 1 学力調査「地域」肯定的回答7割以下	2	全学級で1回以上はGTを招聘できている。	学校が積極的にゲストティーチャーを招聘しているのはよい。	B	引き続きゲストティーチャーの招聘を推進していきたい。
		保護者ともに児童の安全・安心に関わる指導を充実させる。	セーフティ教室の安全指導の内容を保護者に伝え、児童に対する家庭での働きかけを依頼する。	4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。	4	4 保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価9割以上 3 保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価8割以上 2 保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価7割以上 1 保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価7割未満	3	全学級でセーフティ教室を実施することができた。	保護者への内容周知をもっと充実させてほしい。より一層の保護者との連携をすすめてほしい。	B	引き続き保護者とともに児童の安全・安心に関わる指導を充実させる。
		保護者と教員、保護者同士が理解を深める機会をつくる。	学校公開、保護者会、PTA活動等の開催を工夫して行う。	4 学校行事と10個のPTA活動を実施 3 学校行事と7～9個のPTA活動を実施 2 学校行事と5～7個のPTA活動の実施 1 学校行事と4個以下のPTA活動を実施	4	4 保護者(家庭数)出席9割以上 3 保護者(家庭数)出席7割以上9割未満 2 保護者(家庭数)出席6割以上7割未満 1 保護者(家庭数)出席6割未満	2	保護者の出席については、お忙しい家庭も多く、日時や実施の仕方を考慮していく必要がある。	PTA休会後の学校との連携をより一層進めていく必要がある。	C	保護者出席率向上のための取組をすすめる。また、PTA休会への対応を学校運営協議会とともにすすめる。

令和6年度		昭島市立田中小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】	道徳教育を基盤として魅力ある学校をつくる。	
			【目指す児童・生徒像】	「た・な・か」の子 【 た:たくましい子 な:仲良くする子 か:かしこく考える子 の:のびる子 こ:個性豊かな子 】	
			【目指す教師像】	「た(Timemanagement=時間管理)・な(Navigator=誘導者・航海士)・か(kindness=思いやり・親切)」を意識し職務を励行する教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本を大切に分かる授業を実践し、主体的・意欲的に学び、基礎的な知識及び技能等を確実に習得させる。	個々の学習状況を正しく把握し、読む・書く・計算する力を身に付けさせる。	授業、ベーシックドリル、くじらーニング、日常のテスト、力試し、補習教室、宿題・家庭学習等の充実。	4 漢字、計算の定着が85%以上 3 漢字、計算の定着が82%以上 2 漢字、計算の定着が80%以上 1 漢字、計算の定着が80%未満	4	4 全国学力 国・算全国平均 -2.5pt 3 全国学力 国・算全国平均 -3.5pt以上 2 全国学力 国・算全国平均 -5.0pt以上 1 全国学力 国・算全国平均 -5.0pt未満	4	6年全国2教科平均-0.8Pt。指導力向上を目指していきたい。	タブレットの更なる活用を。取組が着実に成果に結びついている。	A	ICT機器の活用を推進して基礎基本の学習の徹底を継続する。
		特別支援教育を充実させ、どの子にも分かりやすい授業を実践する。	市のユニバーサルデザイン(冊子)を活用するとともに、適切な環境づくりをする。	4 全校で冊子のUDチェック実施11回以上 3 全校で冊子のUDチェック実施10回以上 2 全校で冊子のUDチェック実施9回以上 1 全校で冊子のUDチェック実施年9回未満	4	4 児童評価 分かりやすい授業90%以上 3 児童評価 分かりやすい授業88%以上 2 児童評価 分かりやすい授業85%以上 1 児童評価 分かりやすい授業85%未満	4	児童評価「分かりやすい授業」の肯定的回答は95ptであった。指導方法・環境の改善を進めていく。	特別支援教育の難しさを感じる。教員の努力を評価したい。	B	人材不足の中でも児童の学びと成長を推進できる組織づくりを工夫していく。
		学年相当の時間(学年×10分)に基づいた家庭学習を推進させる。	自己の課題克服グッドライフ調査宿題＋自学自習	4 各学年家庭学習実施率91%以上 3 各学年家庭学習実施率86%以上 2 各学年家庭学習実施率81%以上 1 各学年家庭学習実施率81%未満	3	4 保護者評価「家庭学習習慣あり」65%以上 3 保護者評価「家庭学習習慣あり」60%以上 2 保護者評価「家庭学習習慣あり」55%以上 1 保護者評価「家庭学習習慣あり」55%未満	4	児童、学級、家庭の実態を考慮しながら推進することができたが、さらなる習慣化が課題である。	課題の量や内容を学年で統一できるとよい。児童が真面目に取り組んでいて良い。	A	実態を踏まえて課題の量や内容が適切かどうか検証し、習慣化をさせていく。
		児童の道徳的実践力を高める。	道徳科の特質に即した授業を行うとともに、全教育活動を通して道徳教育を推進する。	4 特質に即した道徳授業を全学級で実施 3 特質に即した道徳授業を9割の学級で実施 2 特質に即した道徳授業を8割の学級で実施 1 特質に即した道徳授業を7割の学級で実施	4	4 思いやりの心で行動が85%以上 3 思いやりの心で行動が83%以上 2 思いやりの心で行動が80%以上 1 思いやりの心で行動が80%未満	4	自分や友達を大切にしているとの肯定的回答が95Ptと高かった。	評価が難しい項目だが、これからもしっかりと取り組んでいって欲しい。	B	令和7年度も道徳科を研究教科として道徳教育の充実を図っていく。
			教員の人権感覚を高め、児童が安心して生活できるようにする。	4 年3回以上実施した 3 年2回実施した 2 年1回実施した 1 実施できなかった	4	4 児童評価「男女の別なく仲良く」88%以上 3 児童評価「男女の別なく仲良く」85%以上 2 児童評価「男女の別なく仲良く」82%以上 1 児童評価「男女の別なく仲良く」82%未満	4	相談できるが90%達成。さらに向上できるよう児童理解に努める。	とても児童に寄り添ってくれる教員が多い。人権についてより難しい社会になっている。	A	待つ・聴く・受け止める姿勢で児童が相談しやすくなるような関係性を構築していく。
			学校生活をより楽しいものにする。	4 楽しくする工夫をしている90%以上 3 楽しくする工夫をしているか85%以上 2 楽しくする工夫をしているか80%以上 1 楽しくする工夫をしているか80%未満	4	4 学校生活は楽しいが85%以上 3 学校生活は楽しいが83%以上 2 学校生活は楽しいが80%以上 1 学校生活は楽しいが80%未満	4	新しい発想の工夫で、より一層意味のある活動ができることが分かった。次年度も継続していく。	楽しく交流できているのが良い。学年・学級・教科についてばらつきがある。	A	楽しい田中小学校をつくるために、これからも新しい発想を大切にし、交流活動を推進していく。
健やかな体	日常的な運動を通して体力を向上させるとともに、健康で安全な生活のために必要な生活習慣や食習慣を身に付けさせる。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元気アップガイドブックを活用して体力向上のための体育的な活動を行う。	4 児童評価「運動に意欲的」の評価9割以上 3 児童評価「運動に意欲的」の評価8割以上 2 児童評価「運動に意欲的」の評価7割以上 1 児童評価「運動に意欲的」の評価7割未満	3	4 体力調査のA、B判定の児童が65%以上 3 体力調査のA、B判定の児童が60%以上 2 体力調査のA、B判定の児童が50%以上 1 体力調査のA、B判定の児童が50%未満	4	元気アップGBや外遊びの推進で体力向上を推進していく。	体力向上週間(なわとび、持久走)を今後も継続して体力向上に取り組んで欲しい。	A	元気アップGBのさらなる活用と、体育学習、体力向上週間を推進し、体力向上を目指す。
		健康で安全な生活のために必要な生活習慣を身に付けさせる。	グッドモーニング60分(GM60分)を推進して健康教育を行う。	4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施 3 健康教育の授業を年2回実施 2 健康教育の授業を年1回実施 1 健康教育の授業を未実施	4	4 GM60分達成率が全児童の85%以上 3 GM60分達成率が全児童の80%以上 2 GM60分達成率が全児童の75%以上 1 GM60分達成率が全児童の75%未満	3	放課後が多忙な高学年児童の達成率が上がらない。発達段階に合わせた指標も必要。	家庭の教育力に左右される。GM60推進週間以外の習慣化も大切にしたい。	B	通年で、GM60分の推進を図るようにする。
		健康で安全な生活のために必要な食習慣を身に付けさせる。	望ましい食習慣を身に付けるための給食やお弁当(食育)の日の指導を推進する。	4 食育の指導を毎学期・年3回以上実施 3 食育の指導を年2回実施 2 食育の指導を年1回実施 1 食育の指導を未実施	4	4 食育を活用しているが80%以上 3 食育を活用しているが78%以上 2 食育を活用している75%以上 1 食育を活用しているが75%未満	4	栄養士との連携を深め、成長の基盤となる食育を推進していく。	お弁当の日の意義と取組内容を徹底させたい。給食の充実が嬉しい。	B	残菜率は4.6%で、昨年度より増加。食育リーダーを中心に日常の食育を推進する。
輝く未来	地域・家庭との信頼関係を構築するとともに、児童の豊かな人間性や人間関係調整力を高める教育活動を推進する。	将来の夢を児童にもたせる。	6年職場体験、キャリア・パスポート等を活用し職の理解を深める。	4 生き方について考える機会を与えた70%以上 3 生き方について考える機会を与えた60%以上 2 生き方について考える機会を与えた50%以上 1 生き方について考える機会を与えた50%未満	4	4 将来について考えることがある83%以上 3 将来について考えることがある80%以上 2 将来について考えることがある77%以上 1 将来について考えることがある77%未満	4	キャリアパスポートを活用して、将来の自分について考えていけるようにする。	職場体験等を通じ、将来を考えることは素晴らしい。	A	自分の将来像をイメージさせ、生涯学習の基盤となるキャリア教育をより一層充実させる。
		学校からの情報発信を積極的に行う。	学校便りの発行・メール配信を月1回以上、HPの更新を月3回以上行う。	4 8月を除く11ヶ月で実施 3 8月を除く10ヶ月で実施 2 8月を除く9ヶ月で実施 1 8月を除く8ヶ月で実施	4	4 保護者「分かりやすい情報発信」85%以上 3 保護者「分かりやすい情報発信」80%以上 2 保護者「分かりやすい情報発信」75%以上 1 保護者「分かりやすい情報発信」75%未満	4	必要な情報が見つけやすいHPであるのご意見が多数届いた。	情報発信は大事。メール配信での連絡は今後も続けて欲しい。	A	さらに必要な情報をタイムリーに発信できるよう工夫をしていく。
		集団の中での自分の役割を理解し、すすんで行動する力を育む。	リーダーシップやフォローシップについて理解させ、すすんで実践する児童を育てる。	4 集団内での役割の指導を全教員が実施 3 集団内での役割の指導を9割の教員が実施 2 集団内での役割の指導を8割の教員が実施 1 集団内での役割の指導を7割未満の教員が実施	4	4 生活をよりよくするが85%以上 3 生活をよりよくするが83%以上 2 生活をよりよくするが80%以上 1 生活をよりよくするが80%未満	4	児童評価「生活をよりよくする」の肯定的回答は90ptであった。さらなる向上を目指す。	指標の設定が難しい項目である。	B	愛校心、役割の自覚等の視点を大切にして、よりよい学校生活について考えさせる。

令和6年度		昭島市立拝島第一小学校		学校経営重点計画(教育推進計画 年度末評価【総括表】)	
学校教育目標	○ やさしく(徳) ○ 強 く(体) ○ よく考え(知) 手をつなぐ拝島の子	ビ ジ ョ ン	【目指す学校像】	○ 生き生きと学び、達成感を味わえる学校 ○ 安心して子供を預けられる信頼できる学校 ○ 働きがいのある学校(教職員にとって)□	
			【目指す児童・生徒像】	○ 心身ともに健康な子 ○ 主体的・対話的で深い学びのできる子 ○ 互いに認め合い高め合う子	
			【目指す教師像】	○ 教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために、絶えず研究と修養に努め、児童のために誠心誠意職務に励む教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度の改善策			
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行うとともに、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を目指す。	授業改善、評価の工夫、カリキュラムマネジメントの実施と、個別最適な学び、協働的な学びを目指す指導への挑戦	・ゴール(評価)を明確にし、逆算的に計画する学習展開の工夫 ・児童の興味関心を高め、本時のめあてを学級で共有する主体的な学習 ・問題解決的、探究的な学習 ・児童の実態把握、学力調査の分析、授業改善プラン作成・実践	4 3 2 1	3	4 3 2 1	3	成果指標「授業にすすんで取り組む」は、92.4%→94.8%の児童が肯定的な回答を行っている。2学期にはさらに学習に対する意欲が高まったことがわかる。 取組指標は、3.1→3.4の回答であった。夏休みに作成した授業改善プランにしっかりと取り組んだためだと考えられる。	B	・学校の取組と、子供の評価が呼応しているようにうまく合っていると感じる。 ・不登校児童の学力の保障に工夫をしてほしい。 ・不登校児童への対応で、個々の状況に合った多様な学習が選択できるとよい。教育行政の取組が必要だと考える。 ・保護者としてはあまり感じないが、資料を通して3年間の変化がわかり、おもしろい。 ・多くの児童が自ら授業にすすんで取り組んでいる自己評価は、家庭学習にも自発的に取り組んでいることは素晴らしいと感じた。一方で、力が付かない児童に対する指導が難しいと感じる。ペースは違っても、一人一人が少しずつでも評価を上げることができるよう、今後の取組に期待している。	・次年度も、個別最適な学びを目指し、児童の主体的な学習となるよう、授業改善を図る。そのために、ねらいの明確な学習、振り返りを確実にし、指導と評価の一体化を目指す。また、問題解決的な学習や探究的な学習についても積極的に取り組んでいきたい。			
			・児童の実態に合った学習スタンダードの見直しと取組の徹底 ・「できた」が味わえる朝自習内容の工夫 ・進んで読みたいと思える朝読書の工夫 ・家庭学習の意味を考え、児童が自発的に行える内容の工夫と習慣付け	4 3 2 1		4 3 2 1		成果指標「朝学習や家庭学習の定着」は、89.2%→87.6%の児童が肯定的な回答を行っている。1.6%下がったことがわかる。学習習慣の定着には課題が残る。 取組指標は、2.9→3.2の回答であった。教員は目標達成のために努力したことがわかる。			・次年度も、朝自習や家庭学習に取り組みたくなる工夫をし、基礎学力の定着の手助けとする。一定の児童が自主学習に取り組めないことがわかるため、そのような児童への個別の対応をしていく必要がある。			
			・個に応じた指導及びUDを意識した学習展開(焦点化・視覚化・共有化) ・UD意識した学習環境の整備(板書・見通し・掲示刺激・机上や持ち物の整理) ・指導の個別化、学習の個性化の実践 ・保護者との共通理解	4 3 2 1		4 3 2 1		成果指標「先生の授業分かりやすい」は、97.8%→98.2%の児童が肯定的な回答を行っている。教師の努力と、子供たちとのよりよい関係性が引き続き築けていることがわかる。 取組指標は、3.3→3.4の回答であった。困り感をもつ児童への対応に積極的に取り組んでいるが、苦慮していることもわかる。			・次年度も、教室環境の整備、学習での焦点化・視覚化・共有化を意識した学習展開を行い、児童にとってわかりやすい学習を目指す。また、困り感をもつ児童について、特別支援の専門家とも相談をして、より具体的な個別の対応を検討していく。			
			基礎的基本的な学力を身に付けるための取り組みの提案と実施	特別支援教育の視点を生かした環境整備の充実、授業改善の推進	・価値を明確にした授業づくりと、自己と向き合う学習展開の工夫 ・年間計画の確実な実施 ・全教育活動に関連付けた指導	4 3 2 1	3	4 3 2 1	4	成果指標「自分や友達を大切にしている」は、99.1%→99.6%の児童が肯定的な回答を行っている。子供たちが互いを大切にしようという気持ちも定着していることがわかる。 取組指標は、3.3→3.4の回答であった。道徳の学習に積極的に取り組み、学級経営を行っていることがわかる。	A	・正に、自己指導の能力を養成する取り組みで、他の分野につながることを期待する。 ・この部分の評価が高いことは、これから期待できる力が身に付いていくことだと感じる。 ・自分の周りの仲間に対する肯定感や思いやりの心の大きさは素晴らしいと感じた。様々な学校行事の折にも、その様子を感ずることができた。一方で、自分と違う行動をとる児童がいるとき、どのように止めるか、認めていくことができるのか、とても難しいことだと思うが、押一小の児童なら、きっと今後も豊かになって、行動していくことができると期待している。	・自分や友達を大切にしているという意識は、かなり強く感じていることがわかる。しかし、時々相手の気持ちを考えない言動にはいる児童も一部にみられる。特別支援教育の専門家にも相談して、自分の気持ちをコントロールできない児童の対応について検討していきたい。	
					・人権教育プログラム、いじめ防止対策の活用 ・生活指導連絡会での情報共有と、素早い対応、報道連絡の徹底 ・アンケートの実施と未然防止、早期対応 ・ふわふわ言葉、励まし言葉の日常的な取組	4 3 2 1		4 3 2 1		成果指標「よいこと、悪いことの判断ができる」は、98.9%→97.0%の児童が肯定的な回答を行っている。ふれあい月間での授業や、ふわふわはげまし言葉月間の取組、ふれあいタイムの活用の効果が感じられる。 取組指標は、3.5→3.8の回答であった。週1回の情報交換の充実や、いじめ対策委員会での話し合いを通して、教師の意識の高まりが感じられる。			・よいこと悪いことの判断ができると感じている児童がほとんどであることがわかる。ただ、一部の児童の中に、突発的に相手に暴力的な言動をとる児童がいる。教師が指導をすると同時に、その場にいる仲間が止められるような力を育てていきたい。	
					・ゲストティーチャーによる学びの充実 ・実践、体験的活動の充実 ・基地体験活動の実施 ・縦割り班活動における関わりでの充実	4 3 2 1		4 3 2 1		成果指標「縦割り班や体験活動は楽しかった」は、96.6%→96.1%の児童が肯定的な回答を行っている。1学期よりさらに数値が下がっている。 取組指標は、2.9→3.1の回答であった。1学期を振り返り、ゲストティーチャーを招聘した学習に取り組めたことがわかる。			・学年の取組だけではなく、いかに子どもが主体的に活動できるかが課題である。次年度は、保護者の啓発を含め、オンラインゲームやSNSの継続利用の怖さなども、意図的に計画し、児童と保護者の意識を変革していきたい。	
		心身ともに健康で、安全に過ごすために、自己管理のできるたくましい児童の育成			いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く気付き対応し、安心して通える学校運営の実現	・グッドモーニング60分の取組 ・ノーマディア習慣の取組 ・安全、防災教育の確実な実施とふりかえりの重視 ・チャレンジ精神、ルール尊重、フェアプレーの大切さを指導・実践	4 3 2 1	4	4 3 2 1	3	成果指標「グッドモーニング60分やノーマディア週間に取り組んだ」は、84.5%→80.0%の児童が肯定的な回答を行っている。1学期よりさらに数値が下がっている。 取組指標は、3.5→3.7の回答であった。教師が生活習慣の定着を大切に気付かされたいと、指導を意欲的に行っていることがわかる。	B	・様々な取組を行ってきたが、約20%の児童が肯定的に捉えられていないことは課題である。次年度は、保護者の啓発を含め、オンラインゲームやSNSの継続利用の怖さなども、意図的に計画し、児童と保護者の意識を変革していきたい。	
						・めあてが明確な体育学習の展開 ・元氣アップガイドブックを活用した、体力運動能力調査の分析と、具体的な取り組みの推進 ・体育朝会の取組と授業での活用 ・押一小ピクでの運動遊びの体験から、遊びの日常化への工夫(学活含む)	4 3 2 1		4 3 2 1		成果指標「学校で遊んだり、身体を動かしているか」は、89.1%→85.3%の児童が肯定的な回答を行っている。1学期より数値が下がった。 取組指標は、3.0→3.4の回答であった。体力向上に関する指導を目指し、押一小ピクの工夫や授業の向上に向けた取り組みをしていることがわかる。			・学校でできる取り組みは、かなりすすめることができていて、子供たち自身の中に、外遊びを敬遠する児童が増えてきていることが感じられる。仲間とかかわりあって遊ぶことが苦手だったり、トラブルにつながることも実際にある。仲間づくりにも力を入れて工夫をしていきたい。
						・お弁当の日には自ら栄養について考えたり、食の大切さについて考えたりする活動 ・保健指導から、自分の体についての学び ・健康教育(性犯罪等)への取組 ・外部人材を招聘しての交流や講話や実技指導の取組	4 3 2 1		4 3 2 1		成果指標「安全や健康についての学びを、生活の中で活かす」は92.0%→87.0%の児童が肯定的な回答を行っている。児童の意識が下がってしまったことが残念である。 取組指標は、2.9→3.1の回答であった。食育や体を大切にする指導の機会を作ろうと努力しているが、まだ不十分であることがわかる。			・児童の意識が下がってしまったことは残念である。これまで同様安全指導の充実を図って生きた。また次年度はさらに保健学習での養護教諭の参加や、保健指導での学びを充実させていきたい。発達に応じた内容を考慮した指導ができるよう工夫していきたい。
			健康で安全な生活について自ら考え、仲間と協力して実践しようとする児童の育成	一人一人が自らの体力を知り、自分に合った方法を考え、体力向上に取り組む児童の育成		・学級活動を通して学校生活を仲間と高める活動への取組 ・係活動、委員会活動、クラブ活動、縦割り班活動の自主的な取組 ・自己肯定感、有用感を高める活動の工夫 ・年間指導計画に応じた、キャリア教育実践の充実(キャリアアルバム活用)	4 3 2 1	4	4 3 2 1	3	成果指標「自分の生活を振り返りよりよくしようと思っている」は84.1%→92.2%の児童が肯定的な回答を行っている。1学期より8.1ポイント上がっている。 取組指標は、3.3→3.7の回答であった。学級活動を通して、仲間と高め合う活動にすすんで取り組んでいることがわかる。	A	・日常の子供たちが、自分の考えを伝える力を育む取組だと思う。自分たちで話し合い自分の意見を伝えるだけでなく、他の意見も聴き、話し合い、それが実現する経験を重ねることは大切だと感じる。 ・自分の未来について、児童は大人が感じているより、ずっと真剣に考え意識しているのだと嬉しく感じた。3年間子供たちを信じ、色々な取組を行い、評価分析を行ってきた先生方の成果であると感じる。本当にありがたい、学校評議員として総括にかかわらせていただき、光栄に思う。	・学級活動を通して、問題解決を行い、よりよい学校生活を実現する力を高めていきたい。また、クラブや委員会活動でも、自分たちのために学校のためにも、よりよいものを実現するために、活動を工夫する仕組みを児童に提案していきたい。
						・タブレット端末の積極的な活用 ・デジタル教科書や、インターネット等からの情報・資料の活用 ・情報モラル教育の充実 ・SNS学校ルールの見直しと周知を行い、適切なデジタルデバイス利用の推進	4 3 2 1		4 3 2 1		成果指標「タブレットを活用し、使い方に気を付ける」は94.9%→98.4%の児童が肯定的な回答を行っている。タブレットの利用に慣れ、適切に利用していることがわかる。 取組指標は、3.2→3.4の回答であった。夏季研修も行ったが、数値が変わらないことから、教員の苦手意識が高いことが感じられる。			・児童は、タブレットを利用した活動に慣れたことと、情報モラルについて気を付けて使用することができていることがわかる。教員の数値が上がらないため、次年度も意図的・計画的に研修を取り入れていきたい。
						・地域人材や環境を活用した学習の充実 ・生活科見学、社会科見学、校外学習を通した学びを学習に生かす ・総合的な学習の時間の充実 ・環境をはじめとするSDG'sを意識した活動	4 3 2 1		4 3 2 1		成果指標「校外学習や地域の方とのふれあい学習は楽しかったか」は98.5%→97.4%の児童が肯定的な回答を行っている。児童の肯定感が高いことがわかる。 取組指標は、2.7→3.2の回答であった。2学期には、地域の方との交流活動ができたことがわかる。			・地域の方との交流や、ゲストティーチャーからの学びが効果的に行われていることがわかる。教員の意識も高まり始めている。次年度も引き続き取り組む、効果的な学習となるよう工夫していきたい。

令和6年度		昭島市立拝島第二小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】									
学校教育目標		○よく考える子(知) ○心ゆたかな子(情) ○元気な子(意)(体)	ビジョン	【目指す学校像】	○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校	【目指す児童・生徒像】	○自らの人生(運命)を自らの力で切り拓き、これからの社会の創造を担える児童～グローバルに考え、ローカルに実践する子～	【目指す教師像】	○「チーム拝二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師	○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団			
領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策	
確かな学力	(知) 自ら学び考え判断し、協働して問題を解決することができる児童の育成	日々の授業を充実させ、全国学力・学習状況調査の平均正答率の引き上げを図る。	「拝二小授業力スタンダード20ver.4」を基に、児童が自身の学びの成果を実感できるように指導する。	4	8割以上の教職員が、「授業力スタンダード」に基づく指導を行った。	4	4	学力調査の平均正答率が国比OP	4	「拝二小授業力スタンダードver.4」を基に全教員が授業を実施した(94%)。6年生対象の全国学力・学習状況調査において、本校児童の平均正答率は、国語が74%(全国67.7%)、算数が66%(全国63.4%)だった。	A	国語、算数共に全国平均を上回っており、取組が成果として表れている。	
				3	7割以上の教職員が、「授業力スタンダード」に基づく指導を行った。		3	学力調査の平均正答率が国比-1P					
				2	6割以上の教職員が、「授業力スタンダード」に基づく指導を行った。		2	学力調査の平均正答率が国比-2P					
		1	6割未満の教職員が、「授業力スタンダード」に基づく指導を行った。	1	学力調査の平均正答率が都比-3P								
		言葉の力で獲得した知識を生かして自分の思いを論理的に表現できる児童を育成する。	指導計画のPDCAサイクル化を図り、児童が考えを深め、表現する場を意図的・計画的に設定する。	4	8割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。	4	4	「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上	4	「拝二小授業力スタンダードver.4」を基に授業を実施する中で、全教員が意識して、児童が考えを深め表現する場の設定を行ってきた(89.4%)。朝学習も校内で統一し、継続して取り組む中で、その成果が表れつつある。	A	高ポイントでの結果が出ている。	
		3	7割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。	3	「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上								
		2	6割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。	2	「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上								
		1	6割未満の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。	1	「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満								
		学んだことを日常生活に生かしたり、自分の周りの社会に役立てたりしようとする児童を育成する。	昭島市民科、各教科、特別活動、「特別の教科 道徳」を中心に、教育活動全体を通して児童がセルフモニタリング及びセルフコントロールする場を設定する。	4	8割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。	4	4	授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上	4	全教職員が主に学びのスパイラルや、その中の学習環境において「授業で学んだことを生活に生かす」ことを意図的に指導してきた。しかし、成果指標は74.7%であり、更に新たな取組を考えていく必要がある。	A	引き続き、取り組んでいくことを希望します。	
		3	7割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。	3	授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上								
		2	6割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。	2	授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上								
		1	6割未満の教職員が、授業実践における振り返りを行った。	1	授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満								
豊かな心	(情) 自らの良さを見つめ、他者を尊重し、共により良く生きようとする児童の育成	不登校児童を減らし、全ての児童が安心して登校できる学校にする。	①不登校アセスメントの実施 ②のびのびルームの効果的な活用③温かい学級づくりによる不登校の未然防止	4	8割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。	4	4	不登校の出現回数2割減少	2	学校いじめ対策委員会、不登校対策委員会を毎月開き、個別の案件にきめ細かく検討・対応しているが、家庭的な問題もあり、すぐには解決に至らない案件が多い。しかし、のびのびルームの活用などで改善も見られている。	B	学校対応だけでは、限界がある。学びの機会の充実を図ってください。場所も確保してください。中学とも連携をお願いします。	
				3	7割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。		3	不登校の出現回数1割減少					
				2	6割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。		2	不登校の出現回数増減なし					
				1	6割未満の教職員が、不登校対策に取り組んだ。		1	不登校の出現回数増加					
			学校生活を自ら創り上げる児童を育成する。	「拝二小学級力スタンダードver.2」を基に、児童自らが学校生活を築けるように指導する。児童会選挙の実施。	4	8割以上の教職員が、「学級力スタンダード」に基づく指導を行った。	4	4	自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上	4	学級力とは、「学級力スタンダードver.2」を活用し、児童が課題を見だし、改善する機会を設け、各行事では、実行委員会を設置し、児童が中心となって活躍する機会を設けてきた。その成果が表れている(70.1%)。	A	引き続きの取組をお願いします。
				3	7割以上の教職員が、「学級力スタンダード」に基づく指導を行った。	3		自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上					
				2	6割以上の教職員が、「学級力スタンダード」に基づく指導を行った。	2		自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上					
				1	6割未満の教職員が、「学級力スタンダード」に基づく指導を行った。	1		自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満					
			学校の決まりを守る風土を創り上げる。	学校の決まりの意味・意義を理解させ、守らせる。	4	8割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。	4	4	学校のきまりを守っていると実感する児童70%以上	4	年度や学期の始めにおいて全校で統一した「学校のきまり」を児童に指導している。また、問題行動が見られた際においても、教員が共通理解をもって、決まりの意味や意義を児童に説いている。	A	成果が出ているので、引き続きの取組をお願いします。
		3	7割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。	3	学校のきまりを守っていると実感する児童60%以上								
		2	6割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。	2	学校のきまりを守っていると実感する児童50%以上								
		1	6割未満の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。	1	学校のきまりを守っていると実感する児童50%未満								
健やかな体	(体) 自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる児童の育成	日々の授業の充実を基に、体育の授業が好きな児童を増やす。	「拝二小授業力スタンダード体育編ver.2」を共通実践し、体育科の授業の充実を図る。コーディネーショントレーニングの実施。	4	8割以上の教職員が、「授業力スタンダード体育編」に基づく指導を行った。	3	4	運動が好きになったと実感できる児童70%以上	4	「拝二小授業力スタンダード体育編ver.2」を基に全教員が授業を実施してきた。成果は表れているが、(80.2%)コーディネーショントレーニングについては、取組を更に充実させていく必要がある。	A	取組の成果は表れている。継続して取り組んでいってください。	
				3	7割以上の教職員が、「授業力スタンダード体育編」に基づく指導を行った。		3	運動が好きになったと実感できる児童60%以上					
				2	6割以上の教職員が、「授業力スタンダード体育編」に基づく指導を行った。		2	運動が好きになったと実感できる児童50%以上					
				1	6割未満の教職員が、「授業力スタンダード体育編」に基づく指導を行った。		1	運動が好きになったと実感できる児童50%未満					
			児童の課題に応じた様々な運動に親しませる場を設定し、運動能力の向上を図る。	体力調査(プレ・ポストテスト)の結果に基づく課題分析・解決策の共通理解と共通実践をする。体力向上旬間を設定する。	4	8割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。	3	4	Tスコアを都平均以上にする。	4	Tスコアは、ほとんどの学年で都平均を上回った。体力テストの振り返りや、体育科の授業実践などの取組が結果につながっていると考えられるが、取組指標の結果から、まだ改善の余地がある。	A	体力テストで良い結果が出ているので、引き続き充実した取組を期待します。
				3	7割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。	3		Tスコアを都平均にする。					
				2	6割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。	2		Tスコアを都平均より-1%にとどめる。					
				1	6割未満の教職員が、体力向上のための取組を実施した。	1		Tスコアを都平均より-2%にとどめる。					
			家庭と連携して、児童の基本的な生活習慣の向上を目指す。	「元気アップガイドブック」を計画的に活用し、児童自身が生活改善の大切さを意識し実感できるようにする。	4	8割以上の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。	3	4	生活改善を実感する児童70%以上	3	結果より「元気アップガイドブック」の取組は、全教職員に浸透しているとは言えない(68.4%)。また、生活改善を実感している児童もあと一歩目標に届いていない。(69.1%)。	B	継続して取り組んでいくことを希望します。
		3	7割以上の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。	3	生活改善を実感する児童60%以上								
		2	6割以上の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。	2	生活改善を実感する児童50%以上								
		1	6割未満の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。	1	生活改善を実感する児童50%未満								
輝く未来	(意) 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げることができる児童の育成	昭島市民科や各教科等の充実を図り、地域を担う市民としての愛着を育てる。	地域に根差した昭島市民科や各教科等の授業を展開する。	4	8割以上の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。	4	4	地域に愛着をもつ児童70%以上	4	本校児童の地域に対する愛着は、校内アンケート87.7%で、強いことが分かっている。また、教職員も昭島市民科や生活科を通して、地域に根ざした授業展開や学習内容を設定しており、そのことも要因であると考えられる。	A	引き続き、地域に愛着をもつ児童が増えるような取組を継続してください。	
				3	7割以上の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。		3	地域に愛着をもつ児童60%以上					
				2	6割以上の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。		2	地域に愛着をもつ児童50%以上					
				1	6割未満の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。		1	地域に愛着をもつ児童50%未満					
			●SDGsの達成のために社会を変革する主体者として、家庭生活から変えていこうとする態度を育てる。 ●地域人材を活用し、人との関わりの中で学ぶ機会を充実させる。	●SDGsの達成のために、家庭生活を実際に改善しようと行動に移すことができる児童を育成する。 ●地域人材を活用した体験活動を実施し、社会貢献しようとする児童を育成する。	4	8割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。	4	4	社会貢献しようとする児童70%以上	4	「地域や社会をよりよくするために、何をすべきか考えている」と答えた児童が第6学年で約8割いた。昭島市民科の学習で、社会をより良い方向に変えていこうする学習内容を設定した成果と考えられる。	A	取組の結果が成果として表れている。
				3	7割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。	3		社会貢献しようとする児童60%以上					
				2	6割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。	2		社会貢献しようとする児童50%以上					
				1	6割未満の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。	1		社会貢献しようとする児童50%未満					
			社会の多様な課題への関心・意欲を高め、自らの将来について考える児童を育成する。	昭島版「キャリアアルバム」を活用して、児童が自らの将来に、夢をもてるように指導する。	4	8割以上の教職員が、キャリアアルバムを活用した指導を行った。	4	4	将来への夢や希望がもてたと実感できる児童80%以上	4	「キャリアアルバム」の活用は十分に行ったが(100%)、成果指標において、「将来への夢や希望をもっている」と答える児童の割合は72.3%と開きがあった。更なる取組の検討が必要である。	A	継続して取り組んでいくことを希望します。
		3	7割以上の教職員が、キャリアアルバムを活用した指導を行った。	3	将来への夢や希望がもてたと実感できる児童60%以上								
		2	6割以上の教職員が、キャリアアルバムを活用した指導を行った。	2	将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%以上								
		1	6割未満の教職員が、キャリアアルバムを活用した指導を行った。	1	将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%未満								

令和6年度

昭島市立拝島第三小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	○かしこく ◎やさしく ○つよく	ビジョン	【目指す学校像】	・子供にとって安全・安心の学校 ・保護者や地域とともに子供を育てる学校 ・教職員が互いに高め合う学校
			【目指す児童・生徒像】	・よく考え工夫する児童 ・相手のことを考え、助け合う児童 ・明るく元気な児童
			【目指す教師像】	・質の高い指導を創造できる教師 ・児童同士、教師同士が響き合い、感動とあこがれを創出できる教師 ・児童、保護者、地域に貢献する仕事であることを自覚する教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価	成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	学校全体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実、学力向上を図る。	①「問題解決の型」の徹底 ②「学習スタンダード」の徹底 ③朝学習の週5回実施 ④ICT機器の活用	4 全ての教員が、児童が主体的な授業を行った 3 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った 2 7割の教員が、児童が主体的な授業を行った 1 児童が主体的な授業を行った教員が7割以下であった	4	4 児童アンケートで「主体的に学習した」が8割以上 3 児童アンケートで「主体的に学習した」が7割以上 2 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割以上 1 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割未満	3	全教職員が「問題解決型」の徹底や「学習スタンダード」の徹底、ICT機器の活用を行ったが、アンケートで主体的に学習したと回答した児童は72％であった。	児童が主体的になれない理由をしっかりと把握して、今後の授業に活用してほしい。	B	全国の学力調査結果について、さらに精査し分析して、学力の維持向上に努めていく。		
		授業のユニバーサルデザイン化を推進し、学習意欲と学力の向上を図る。	①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業 ④本領発揮プログラムの活用	4 ①ユニバーサルデザインチェックリストの全てに取り組んだ。 3 ユニバーサルデザインチェックリストの8割以上に取り組んだ。 2 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以上に取り組んだ。 1 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以下にしか取り組めなかった。	4	4 児童アンケートで「分かりやすい」が8割以上 3 児童アンケートで「分かりやすい」が7割以上 2 児童アンケートで「分かりやすい」が6割以上 1 児童アンケートで「分かりやすい」が6割未満	4	全教員が昭島市のユニバーサルデザインの冊子を基に、誰にとっても、やさしい教室環境、分かりやすい授業を心掛けた。7月に行った、児童の学校アンケートでは、「学校の授業は分かりやすい」という肯定的評価が78.5％であった。	市のユニバーサルデザインを基に分かり易い授業の工夫がなされていると思われる。	A	ユニバーサルデザインについて、教員の理解向上に向けて、引き続き研修等を実施していく。		
		タブレットPCの積極的な活用とキャリア教育の推進	①プログラミング学習に関わる授業(年5回以上) ②キャリアパスポートに関わる指導(年3回) ③オンライン授業(年3回)	4 全ての教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 3 8割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 2 7割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 1 6割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。	4	4 児童アンケートでオンライン授業への肯定的評価が8割以上 3 児童アンケートでオンライン授業への肯定的評価が7割以上 2 児童アンケートでオンライン授業への肯定的評価が6割以上 1 児童アンケートでオンライン授業への肯定的評価が6割未満	4	1学期にオンライン授業を実施した。児童へのアンケートでは、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うこと」に対する肯定的評価が85％であった。	調べ学習やオンライン授業などでの活用有意義な面。はじめある使用の徹底もお願いします。	A	次年度も引き続きオンライン授業やプログラミング学習等、ICT教育の推進を図る。		
豊かな心	学校全体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します	児童の自己肯定感を高め、個々の良さを発揮できるように、学級活動を実施する。	①校内研究の推進 ②生活スタンダードの徹底 ③QUTテストの活用	4 全ての教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 3 8割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 2 7割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 1 6割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	4	4 WEBQUTテストの結果で安定感のある学級が3割以上 3 WEBQUTテストの結果で安定感のある学級が2割以上 2 WEBQUTテストの結果で安定感のある学級が1割以上 1 WEBQUTテストの結果で安定感のある学級が1割未満	4	WEBQUTテストの結果、安定感のある親和的な学級が全体の5割以上との結果が出た。学校全体も落ち着いた雰囲気でも、挨拶もよくできるようになった。また、全学年で情報モラル教育に取り組むことができた。	様々な友達との活動から、コミュニケーション能力を高め、情緒を大切に育んでいきたいです。	A	教科担任制の成果と課題を精査し、検証していくとともに、たてわり班活動等、特別活動を充実させていく。		
		教育活動全体を通して、道徳の実践力を身に付けさせる。	①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③児童が考え議論する道徳	4 全ての教員が、道徳の時間の指導を改善した 3 8割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 2 7割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 1 6割の教員が、道徳の時間の指導を改善した	4	4 児童アンケートで「学校が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「学校が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割未満	4	児童アンケートでは「学校は楽しい」と肯定的に回答している児童が、86％であった。毎月、スクールカウンセラーを交えて、学校いじめ対策委員会を定期的に行い、児童の実態把握やトラブルの早期解決に結びつけることができた。	家庭で規範意識を身に付けさせるのが難しい時代だけに、道徳の授業が大切だと思います。	A	毎月のいじめ・不登校の実態を確認し、迅速かつ組織的な対応を継続して取り組んでいく。		
		学校図書館を活用し、読書の啓発に取り組む。	①学校図書館の利用(週1回) ②読書旬間の実施(年3回) ③人権教育を推進する図書の購入	4 全ての学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 3 8割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 2 7割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 1 6割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。	3	4 8割の児童が年間20冊以上の本を借りた 3 7割の児童が年間20冊以上の本を借りた 2 6割の児童が年間20冊以上の本を借りた 1 年間20冊以上の本を借りた児童が6割未満	3	1月中旬までは、貸出冊数は、21846冊となり、一人当たり、36.4冊となっている。読書旬間等、学校全体での取り組みにより昨年度同時期より、2000冊以上の増加となっている。	一人一台タブレットの時代ですので、電子図書のライブラリーを作るなど、図書室に行かなくても読書ができる環境作りも必要になってくるのではないかと思います。	B	学校全体での取組を引き続き実施し、さらに高学年児童の読書習慣の定着を目指していく。		
健やかな体	学校全体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進める。	①体力向上プラン(9月改訂) ②コロナ禍でも可能な運動の推進 ③運動週間(年3回)	4 全教員が体力向上プランを活用した指導を行った。 3 8割以上の教員がプランを活用した指導を行った 2 7割以上の教員がプランを活用した指導を行った。 1 7割未満の教員がプランを活用した指導を行った。	4	4 児童アンケートで「運動が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「運動が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割未満	4	児童アンケートでは、85％の児童が「運動は楽しい」と肯定的に回答している。夏以降、運動会への取り組みや民間委託での水泳指導等、運動する機会が増え、児童の体力向上に向けてのからだづくりやクイズ等、学校全体での取り組みも計画的に進めることができた。	体を動かすことが大好きな児童が多く、運動会のパフォーマンスも最後まであきらめず走り続けるなど、各々が頑張っていた。	A	体育の活動時間の確保や休み時間の外遊びの奨励等、児童の体力増進を図る取組を計画的に位置づけていく。		
		日常的な運動習慣の確立を図り、健康な生活を目指す。	①元気アップカードの活用 ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	4 全教員が元気アップカードを活用した指導を行った。 3 9割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った。 2 8割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 1 8割未満の教員が元気アップカードを活用した指導を行った	4	4 7割以上の児童が目標を達成している 3 6割以上の児童が目標を達成している 2 5割以上の児童が目標を達成している 1 5割未満の児童が目標を達成している	3	今年度のテストでは学校全体として数値の低下が見られた。目標達成に関しては多くの児童が自分の立てた目標や期待値を下回っている。	運動習慣は、幼い時からの体験が継続となるので、特に低学年に運動の機会を与え、習慣化するようなプログラム作り、低学年の運動強化が必要。	B	児童の取組目標を見直し、学校全体での外遊びの励行や体力づくりの働きかけなど、継続的に実施していく。		
		安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育む。	①安全教育全体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(年11回) ③安全指導日の指導(年11回)	4 全ての教員が、安全指導を計画的に行った。 3 9割の教員が、安全指導を計画的に行った。 2 8割の教員が、安全指導を計画的に行った。 1 7割の教員が、安全指導を計画的に行った。	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4	避難訓練について、工夫改善を行い、警察と連携した不審者対応訓練や管理職不在時を想定した場合も実施できた。年間の安全指導について、全教員で確認し、計画的に進めている。	訓練を通しての身の安全の確保を児童に教え、体験することが、身に付けるために効果的であると思う。	A	警察と連携しての不審者対応訓練等を実施することができたので、来年度も計画的に取り組んでいく。		
輝く未来	学校全体として組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます	話し合い活動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育む。	①学級会活動(年10回以上) ②課題解決型学習の重視 ③タブレットPCの活用	4 全ての学級が、タブレットPCでの意見共有を行った。 3 8割以上の学級が、タブレットPCでの意見共有を行った。 2 6割以上の学級が、タブレットPCでの意見共有を行った。 1 タブレットPCでの意見共有を行った学級が6割未満。	4	4 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が6割未満	3	児童アンケートで、94％の児童が「話し合い活動が楽しい」と回答した。2学期、3学期にすべての学級でオンライン授業を行い、ICTの活用について、進めることができた。	タブレットPCでの意見交換等、時代に即している授業を通して、相手の意見を尊重する心を身に付けてほしいと思います。	B	児童間でのトラブルに対して、迅速かつ適切な対応を図れるように、学校体制でのフォローを行っていく。		
		教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	①各学年で外部人材を活用した授業を計画 ②学年の発達段階に応じた実現可能な交流プログラムの作成	4 ①各学年で外部人材を活用した授業を実施した。 3 9割以上の学年で外部人材を活用した授業を実施した。 2 8割以上の学年で外部人材を活用した授業を実施した。 1 外部人材を活用した授業を実施した学年が6割未満。	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4	全学年で外部人材を活用した授業を行うことができた。また、校外学習として、近くの施設に出かける等、学習を進めることができた。校内研究で、コミュニティ・スクールが始まり、地域への学習に興味・関心をもつ児童が増えた。(87.7％)	様々な分野のゲストを招いた授業が充実してきている。先生方と関係者の連携が強くなっていることが子供たちのより良い学習につながっていると思います。	A	外部人材との交流体験を計画的に実施することができた。次年度は、更に広げていけるように計画・立案を進める。		
		保護者や地域と連携し、行事活動を充実させる。	①PTAや地域と連携して運動会・学習発表会・研究発表会を行う。 ②PTAや地域と連携し安全見守り活動の強化を行う。	4 PTAや地域と年4回以上の連携ができた。 3 PTAや地域と年3回以上の連携ができた。 2 PTAや地域と年2回以上の連携ができた。 1 PTAや地域との連携は年2回以下だった。	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4	コミュニティ・スクールとして、10月の運動会、11月の展覧会、9月と1月の挨拶運動等、PTAとの連携を順調に進めることができた。	コミュニティ・スクールの運営が進み、拝三小の特性が発揮できるように期待しています。	A	コミュニティ・スクールとしての組織体制づくりの充実を図っていく。		

令和6年度		昭島市立福島中学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	○希望 ○創造 ○潤い	ビジョン	【目指す学校像】	○生徒が生き生きとして、自尊感情を高め、心を開ける学校○生徒・保護者・地域の願いに応え、ともに歩む学校○生徒・保護者・地域・教職員が安心でき、信頼し、躍進できる学校	
			【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、自ら考える生徒　○他を思いやり、支え合う生徒　○責任をもち、やりぬく生徒	
			【目指す教師像】	○生徒を第一に考え、生徒の良さを伸ばす教師○自己の資質向上と健康管理に努める教師○和、礼、法を重んじ、信頼される教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	確かな学力の定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善を進める。	言語活動や協働学習を通して深まりのある指導を実践する。	授業で、「つかむ・考える・広げる・深める」4ステップ授業を定着する。	4 深まりにつながる授業を行った	2	4 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が90%以上	2	教え合いを活動を進め、さらに深まりを感じる授業をしていく。生徒が自ら探究するのに加えて、日常生活と関連付けた発問の工夫を行った。	4ステップの授業を行い、引き続き、生徒が主体となって対話的学習をして内容の理解を深めてほしい。	C	深まりにつながる基礎基本の徹底の授業を進める。探究的な課題の設定や発問の工夫により、「深める」時間を設ける。
				3 「深める」ための授業の工夫を行った		3 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が80%以上					
				2 主体的対話的な授業の工夫を行った		2 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%以上					
				1 個と集団を意識した授業を行った		1 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%未満					
		考えを深めるための読解力と表現力を身に付けさせる。	国語科を中心に、読む・書く時間を確保するとともに、発表活動の場面を増やす。	4 深く読み、表現する授業を毎時間展開した	2	4 考え発表する体験が多いと感じた生徒が80%以上	2	考え発表できる生徒を増やしていく。生徒たちが協働して活動する場面や、生徒一人一人が発表する取組を行い、話し合い活動を活発にできた。	多くの生徒が発表の場を設けることで、深く読むこと考えを表現する場面を増やしていったほしい。	C	苦手意識のある生徒へのアプローチを工夫する。また発表しやすい雰囲気醸成していく。
				3 深く読み、表現する授業を7割以上行った		3 考え発表する体験が多いと感じた生徒が70%以上					
				2 授業では自分の考えを書く		2 考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%以上					
				1 授業では読むこと書くことを大切にした		1 考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%未満					
		主体的な学習習慣を基に、主体的に学ぶに向かう態度を養う。	授業のねらいと振り返りを行い、自ら意欲をもって授業や家庭学習を主体的に取り組む。	4 毎時間の振り返りを次時に生かす指導を行った	3	4 主体的な学習習慣が定着した生徒が90%以上	3	課題を小まめに出すことで、家庭学習の定着を図った。生徒一人一人が必ず発表する形をとり、他者と協働して発表内容をつくることができ、主体的な学びを進めた。	ICT機器を活用しながら、ねらいを示しながら生徒主体の振り返りができるように取り組んでほしい。	B	課題の出題頻度を増やし、家庭学習の定着を図る。目標と振り返りを記録させ、学習に生かしていく。
				3 毎時間のねらいと既習事項を関連付けた振り返りを行った		3 主体的な学習習慣が定着した生徒が80%以上					
				2 毎時間ねらいを示し、振り返りを行った		2 主体的な学習習慣が定着した生徒が50%以上					
				1 授業のねらいと振り返りを時々行った		1 主体的な学習習慣が定着した生徒が50%未満					
豊かな心	自己有用感を高めることで自尊感情を育み、お互いを大切に尊重できる人間関係を構築する。	考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	①全教員が道徳授業を行う。②全教科で内容項目に関連付けて指導する。	4 生徒が考え、気付きのある発問を工夫した	3	4 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が80%以上	3	全教員が実践し、考えを深める指導は継続する。発問は、毎回のワークシートで学年の実態に応じた授業づくりを行い、生徒が考え、気付きのある発問の工夫をした。	道徳公開は各学年で充実している。教材の工夫を進め、生徒の考えや意見を重点に取り組んでほしい。	B	生徒自身に気付きの時間を十分にとる。発問を工夫し、傾聴や意見を共有できる授業をする。
				3 教材解釈と教材の工夫を十分に行った		3 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が70%以上					
				2 計画通りに22の内容項目を全て扱った		2 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が50%以上					
				1 自分で教材理解をして年間35時間行った		1 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が50%未満					
		一人一人を大切に尊重し、努力を認めて褒めることで自尊感情を育む。	傾聴、共感、認める、助言、実行、賞賛する生徒育成サイクルによる指導を実践する。	4 生徒育成サイクル指導の実践が定着した	3	4 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が80%以上	3	丁寧な生徒指導を意識し、多様性の尊重や傾聴、共感をし、認めるから助言につなげた。生徒の個性を大切にしつつ、努力をしたタイミングで賞賛し自尊感情を育んだ。	生徒育成サイクルを進め傾聴、共感の姿勢を実践して、一人一人の大切さを感じさせるようにしていく。	B	やり取り帳の活用、コミュニケーションを大切にしていく。生徒が主体となることができる活動を取り入れていく。
				3 傾聴、共感、認めるから助言につなげた		3 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が85%以上					
				2 傾聴、共感をし、認める努力をした		2 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が90%以上					
				1 傾聴せずに、すぐ指導・説諭をする		1 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が90%未満					
		気持ちよい挨拶や返事を通して、お互いが快適に過ごせる人間関係を築く。	自らすすんで挨拶や返事をする習慣を付けさせる。	4 学校内外では教員自ら挨拶や声かけを行った	3	4 学校内外で、すすんで挨拶できる生徒が80%	3	すすんで挨拶ができる生徒はいる。挨拶の良さや必要性を伝えてはいるが、まだ定着できない。教員からの挨拶は継続して行っている。	校内での挨拶はよくしている。学校外でも進んで挨拶する習慣、大切さを伝える取組をしてほしい。	B	継続して指導していく。校内や校外でも教員自ら生徒に挨拶をする。気持ちの良い言葉遣いの指導をする。
				3 学校生活での挨拶・返事の指導を徹底した		3 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が80%以上					
				2 授業中の挨拶・返事の指導を徹底した		2 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%以上					
				1 挨拶・返事の指導を時々行った		1 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%未満					
健やかな体	自らの生活を健康的で健全にするために、体力向上を図り、規則正しい生活を送る。	年間を通して健康に過ごすための基礎体力・持久力の向上を図る。	一人一人に体力向上における目標を設定させ、主体的に運動する習慣を身に付ける。	4 一つ一つの運動の効果や取組方法を徹底指導した	3	4 運動を主体的に取り組む生徒が90%以上	3	保体の授業では全体と個人の目標をそれぞれもたせ、目標達成に向けて取り組ませている。持久力について指導の効果が現れてきている。	部活動等でも運動する習慣の大切さを教えてほしい。継続して健康に過ごすための取組方法を指導していく。	B	授業、部活動でも継続して指導やサポートをしながら、生徒が主体的に取り組める工夫を進めていく。
				3 体力向上のために個に応じた方法を指導した		3 運動を主体的に取り組む生徒が70%以上					
				2 体力向上の意義と取組み方法を指導した		2 運動を主体的に取り組む生徒が50%以上					
				1 体力向上のための指導した		1 運動を主体的に取り組む生徒が50%未満					
		食事や睡眠を大事にし、自らの健康増進に努める生徒を育てる。	給食を残さず食べる指導を行い、保護者には早寝・早起き・朝ご飯の協力を求める。	4 学級で食の大切さと残さず食べる指導を徹底した	3	4 全校で1か月の平均残菜率が5%以下	3	栄養士から給食の時間に食育につながる話を行った。残食を減らせるよう、声掛けや配膳している。バランスのとれた食事が健康増進につながることを生徒に伝えた。	引き続き、健康的で規則正しい生活を送るために、食の大切さ、睡眠の必要性を指導していく。	B	委員会と栄養士を連携しながら、食事の重要性や食物や作ってくださる方への感謝ができる取組を進める。
				3 学級で食の大切さと残さず食べる指導をした		3 全校で1か月の平均残菜率が7%以下					
				2 学級で残さず食べる指導に取り組んだ		2 全校で1か月の平均残菜率が8%以下					
				1 学級で食育指導を定期的に行った		1 全校で1か月の平均残菜率が8%前後					
		SNSの利活用について考え、規則正しい生活を送らせる。	SNS学校ルールへの定着及び家庭ルールへの作成・定着を徹底する。	4 SNSルールの徹底を家庭に指導した	3	4 SNSルールが定着した生徒が80%以上	2	SNSの利用は、三者面談での話題、学年集会や学年通信を通じて注意喚起や指導を行った。また自分を守るために大切なことを考えさせる指導を行った。	学校、家庭ともにルールが定着できるように取り組んでいく。正しい使い方を継続して指導してほしい。	B	正しいSNSの利用方法や端末の長時間使用に伴う視力低下やストレートネック等の予防に関わる指導を行う。
				3 SNSルールを学級で指導・徹底した		3 SNSルールが定着した生徒が50%以上					
				2 SNS家庭ルールの作成を学級で指導した		2 SNSルールを意識している生徒が50%以上					
				1 SNS学校ルールを学級で指導した		1 SNSルールを意識している生徒が50%未満					
輝く未来	家庭・地域との連携を進め、将来にむけて確かな夢をもてるような人格形成を図る。	家庭・地域との信頼関係を深めるために情報発信を行い、意見を求める。	学校・学年だよりの発行、ホームページの更新を毎月行い、読者意見に丁寧に対応する。	4 毎月発行・更新し、地域からの意見に対応した	3	4 学校の教育活動に安心している保護者が90%以上	3	定期的に、学年だよりを発行し、生徒・保護者に学年の方向性を取組を発信した。保健だよりで月1回、生徒の健康増進に向けた情報の啓発を行った。	学校だよりにより、学校の様子が伝わってくる。家庭との信頼を深めるため、情報発信を継続していったほしい。	B	学年だより等を定期的に、情報発信を継続していく。情報の取り扱いについて注意しながら、発信を行っていく。
				3 学校・学年だよりとHP更新は毎月1回以上行った		3 学校の教育活動に安心している保護者が80%以上					
				2 学校・学年だよりは毎月1回以上発行した		2 学校の教育活動に安心している保護者が60%以上					
				1 学校だよりは毎月1回以上発行した		1 学校の教育活動に安心している保護者が60%未満					
		キャリア教育によって夢をもち、実現に向けて努力する生徒を育成する。	総合的な学習の時間及び進路学習を通して、将来について具体的に考えさせる。	4 将来の夢の実現に向けた計画づくりを指導した	3	4 夢に向けてキャリアプランを作った生徒が50%以上	3	総合的な学習の時間等を通じ、将来の展望についての実践を図ることができている。職場体験、進路学習を通して、将来の生き方を考える時間を設けることができている。	職場体験の継続と充実や、将来の自分を考えながら、夢を具体的にもてるような場を継続して作っていく。	B	進学だけではなく、将来を考えられる指導を行う。興味がある物や夢について考えさせる授業を行う。
				3 将来の自分を考えさせる指導を行った		3 将来の夢を具体的に考えた生徒が80%以上					
				2 自分の良さを適正を知る指導を行った		2 将来の夢を見付けるために進路学習を行った					
				1 働く意義や職業について考えさせる		1 将来の夢を見付けるために進学先を考えた					
		9年間を見通した計画的な指導を行い、地域との関わりを深めていく。	福島中グループの小中連携教育における3つのスタンダードを定着させる。	4 スタンダードを周知・徹底し、小学校との実践を深めた	2	4 スタンダードを実践し定着した	2	小中連携をもとに、指導に関することを考えることができた。授業の進め方は安定し、落ち着いた授業を行うことができている。学校だより等を活用して、周知を行った。	補導連絡会、地区連絡会等を通して深められている。小中連携を通して情報交換や関わりを深めてほしい。	C	スタンダードを確認した後、共通理解、共通実践を目指していく。
				3 スタンダードを徹底するために家庭協力を求めた		3 スタンダードを生徒・家庭が実践した					
				2 スタンダード定着に向けクラスで指導・徹底した		2 スタンダードを家庭が理解できた					
				1 スタンダードの内容を生徒に理解させた		1 スタンダードを生徒が理解できた					

令和6年度		沼島市立瑞雲中学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	すすんで学習に励む生徒 たくましい体力を身につけた生徒 規律と礼儀を重んじる生徒 すすんで働き、協力しあう生徒	ビジョン	【目指す学校像】	・真面目に努力する生徒が生き生きと活躍できる学校・自主・自立の精神を培うことができる学校・生徒・保護者・地域・教職員が誇りをもてる学校	
			【目指す児童・生徒像】	・すすんで学習に励む生徒・たくましい体力を身につけた生徒・規律と礼儀を重んじる生徒・すすんで働き、協力しあう生徒	
			【目指す教師像】	・親切、丁寧、コミュニケーション重視・全員一丸での組織対応・認めて褒める指導・チェックと改善・教育公務員の自覚・ライフワークバランス	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	全ての生徒に義務教育終了時に必要な基礎学力を定着させる学力保証の取組の充実	指導方法の工夫改善	ねらいの明示、導入の工夫、振り返り、授業評価を授業で実践する	4	自己評価4段階平均値3.7以上	4	90以上の生徒が先生方は授業を工夫していると回答	3	・授業のはじめにねらいを明示し、プリントやノートに書かせることで、授業内にいつでもねらいを確認できるようにした。導入では前時の振り返りとして口頭試問や動画視聴、小テストを行い、基礎学力の定着を図った。	B	・授業の振り返りは、定期考査後などに行った。生徒自身が成果と課題を振り返ることができた。 ・振り返りを考えさせるときに、何のために学び、どんなことと結び付いている学習なのかを明確にしていくな。
				3	自己評価4段階平均値3.6以上	3	80～90未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答				
				2	自己評価4段階平均値3.5以上	2	70～80未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答				
				1	自己評価4段階平均値3.5未満	1	70未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答				
		学習意欲の向上と家庭学習の充実	『家庭学習の記録』を活用したり、宿題の出し方を工夫したりして家庭学習を定着させる	4	自己評価4段階平均値3.7以上	4	70以上の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答	3	・毎回の授業で出す宿題への取り組み方、直し方への声掛けを行っている。家庭学習の習慣化によって、さらに積み重ねの学習の大切さにも気づかせるように声掛けをしている。	B	・家庭学習として、毎時間宿題をプリント1枚取り組んでいる。生徒がより知識を定着するため、間違えた問題に再挑戦し、できるまでやり直すことの必要性を伝え、学びを確実なものにしていくな。
				3	自己評価4段階平均値3.6以上	3	50～70未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答				
				2	自己評価4段階平均値3.5以上	2	40～50未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答				
				1	自己評価4段階平均値3.5未満	1	40未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答				
豊かな心	多様な価値観の中で自身の判断力を磨き、心豊かに主体的に正しい判断をし行動できる人格の育成を目指す指導の充実	正しく判断し行動できる力の育成	生徒の心に寄り添う丁寧な生活指導や道徳教育を充実させる	4	自己評価4段階平均値3.4以上	4	90以上の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答	4	・授業前や休み時間、給食準備の時間には教室や学年の廊下にいるようにし、生徒が小さなことでも話しやすく、生徒の異変に気づきやすい環境づくりを行った。道徳科の授業では、生徒が自分事として捉えられるような道徳科の授業を行うことができた。	A	・生徒とのコミュニケーションを積極的にとることができた。引き続き生徒の様子をよく観察していく。どの生徒とも全力で向き合うことを意識する。
				3	自己評価4段階平均値3.3以上	3	80～90未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答				
				2	自己評価4段階平均値3.2以上	2	70～80未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答				
				1	自己評価4段階平均値3.2未満	1	70未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答				
		生徒の主体的活動の充実	教育活動に他者と関わりながら主体的に判断する内容を取り入れる	4	自己評価4段階平均値3.6以上	4	90以上の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答	4	・教科授業内や道徳科や特別活動などでは様々な小グループによる意見交換を行い、意識的に他者の考えに触れる機会をつくるようにした。委員会では生徒の意見を汲み取り、取り組みを企画した。	A	・行事委員会や専門委員会では、生徒が自分たちで作り上げたという達成感や実績を得られるように、意見を具現化し、新しい取り組みにつなげていく。
				3	自己評価4段階平均値3.5以上	3	80～90未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答				
				2	自己評価4段階平均値3.4以上	2	70～80未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答				
				1	自己評価4段階平均値3.4未満	1	70未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答				
健やかな体	生き生きと豊かな社会生活を送るための基礎体力を身に付けさせる健康教育と体力向上の推進	基礎体力の向上	体育の授業や部活動、行事などを通じて基礎体力を向上させる	4	自己評価4段階平均値3.1以上	4	90以上の生徒が体力が身に付いてきたと回答	3	・部活動において、他の顧問や保護者との連携を取りながら、個々にあった練習を行い、チーム全体の能力を高めた。 ・保健体育科の授業ではタブレット端末やプロジェクターを活用し、正しい体の動かし方の習得を目指した。	B	・部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるような声かけを行う。失敗体験や成功体験から次へ繋げる気持ちのもって行き方を考える。
				3	自己評価4段階平均値3.0以上	3	80～90未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答				
				2	自己評価4段階平均値2.9以上	2	70～80未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答				
				1	自己評価4段階平均値2.9未満	1	70未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答				
		健康・安全に関する指導の充実	各学年・学級で状況に応じた健康・安全に関する日常的な指導を実施する	4	自己評価4段階平均値3.7以上	4	90以上の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答	3	・手洗いなど基本的な感染症予防についても呼びかけを行うことができた。また、保健給食委員の生徒を中心として、学校全体の衛生管理に目を向けることができた。	B	・地域合同防災訓練、セーフティ教室、不審者訓練、薬物乱用防止教室、がん教育、救命救急講習などの行事では地域の方やゲストティーチャーの協力を得て健康安全に関する理解を深める。
				3	自己評価4段階平均値3.6以上	3	80～90未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答				
				2	自己評価4段階平均値3.5以上	2	70～80未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答				
				1	自己評価4段階平均値3.5未満	1	70未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答				
輝く未来	自己を見つめ自らの生き方を考え、変化の著しい社会を生き抜く力を身に付ける生涯学習の視点からの進路指導の充実	進路指導の充実	生徒や保護者に寄り添い、親切丁寧な進路指導を実施する	4	自己評価4段階平均値3.7以上	4	70以上の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答	3	・進路面談や進路説明会で進路情報の共有を図り、生徒の進路希望に沿った面談を行った。 ・三者面談を活用し、生徒一人一人に寄り添い、現在の様子と今後の生活について話し合うことができた。	B	・中3での進路選択が春から自分のこととして受け止められるように、中1・2年の頃から職業調べや上級学校調べ、職場体験などを通し、勤労や学習に対する意欲や目的意識を育てていく。
				3	自己評価4段階平均値3.6以上	3	60～70未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答				
				2	自己評価4段階平均値3.5以上	2	50～60未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答				
				1	自己評価4段階平均値3.5未満	1	50未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答				
		系統的な生き方指導の充実	三年間を通じて自己を見つめ、社会を知り、将来を考える指導を系統的に行う	4	自己評価4段階平均値3.6未満	4	90以上の生徒が自分の将来について考えることがあると回答	3	・学期ごとにキャリアパスポートを記入することで、自分について改めて考え、記録していくことの必要性を意識させている。 ・職業調べを行うことで、進路に向けて考えるきっかけを作った。	B	・最新の進路情報を収集し、実際に役立つ進路指導をしていく。将来について考える機会が少ない生徒もいるため、キャリア教育を充実させることで考える機会を作る。
				3	自己評価4段階平均値3.7未満	3	80～90未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答				
				2	自己評価4段階平均値3.8未満	2	70～80未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答				
				1	自己評価4段階平均値3.9未満	1	70未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答				

令和6年度		清泉中学校	学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】		
学校教育目標	人権尊重の精神を基調として、社会において信頼される人間性豊かな生徒の育成を目指す 豊かに、たくましく そして 創造的に	ビジョン	【目指す学校像】	生徒にとっても教職員にとっても、さらには家庭・地域にとっても「楽しく」、「学び、集い、あえる」学校 1、学校は「成長を実感できる場」 2、学校は「自己実現できる場」 3、学校は「夢や機能をはぐくむ場」 4、学校は「安心して安全に生活できる場」 5、学校は「「意外性」』『多様性』を生かしていく場」	
			【目指す児童・生徒像】	「豊かに、たくましく そして 創造的」な生徒	
			【目指す教師像】	【15歳の生徒の姿に責任をもつ教師】1、生徒一人一人を大切にする教師 2、1時間1時間の授業を大切にする教師 3、生徒・家庭・地域から信頼される教師 4、「和」を重んじ、チームのために自己の力を発揮できる教師 5、清泉中を愛する教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得 思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学習意欲の向上を図る。	指導方法の工夫改善	・「何のために」を生徒と教師が共有した指導の実施 ・板書、課題提示など誰にとっても分かりやすい授業の実施	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	4	4 90%以上の生徒が肯定的な回答 3 80%以上の生徒が肯定的な回答 2 70%以上の生徒が肯定的な回答 1 70%未満の生徒が肯定的な回答	3	・教科担当者は、ねらいの提示、モニターの活用、板書等工夫を行っている。	・学習への取組がこれからの教育となっている。 ・学校公開の授業の参観での様子から教員も授業改善への努力をしている。	B	・今年度実践した社会に開かれた学びの分析を行い、生徒の学びを深める指導を行う。
		生き抜いていくための基礎・基本の力の定着	・自主勉強会の実施 ・1人1台タブレットを使用した家庭学習の実施	4 自己評価4段階平均値3.5以上 3 自己評価4段階平均値3.3以上 2 自己評価4段階平均値3.1以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	4	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 65%以上の生徒が肯定的な回答 2 50%以上の生徒が肯定的な回答 1 50%未満の生徒が肯定的な回答	4	・自主勉強会は、1月からの実施であり、年間をとおして実施し、学習環境を整備していく。 ・家庭学習のタブレット使用の頻度が、学年によって異なっている。	タブレットや複数教材を見つける場合は、生徒によく分かってもらう工夫が必要。積極的に授業に参加できることが増えれば、効果的である。	A	・自主学習教室を年間で計画的に実施する。 タブレットを使った家庭学習の研究を行い、生徒の家庭学習の定着を図る。
		自らの考えを大切に、既習事項や経験を生かした意見交換、考えの再考をする学びの充実	・1人1台タブレット等を活用した意見交換の実施 ・対話を通して考えを深めていく学習活動の充実	4 自己評価4段階平均値3.5以上 3 自己評価4段階平均値3.3以上 2 自己評価4段階平均値3.1以上 1 自己評価4段階平均値3.1未満	4	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答	4	・生徒同士の意見交流の設定をする事が増えてきた。校内研究後、教員が「生徒が主体的に活動する行事について」考える機会が増えた。	・教員間で横断的に研究している。 ・自らの考えを大切に既習事項や経験を生かした意見交換、考えの再考をする学びの充実に関しては、生徒の評価が高い。特定教科のみならず教科横断型授業により教科間の相互理解のもと、多くの教科の評価向上につなげる。	A	・各教科の特性を踏まえ、他者の考えを基に自らの考えを深化させる授業の工夫改善を行う。
豊かな心	落ち着いた学校生活の実現を図るとともに、自尊感情や自己肯定感を高め、豊かな心の育成を図る。	規範意識のある自己肯定感、自己有用感の醸成	・ルールを生徒自らが考え、つくり守る指導の充実 ・自分のよさや強みを発揮する自治的活動の充実	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	3	4 90%以上の生徒が肯定的な回答 3 80%以上の生徒が肯定的な回答 2 70%以上の生徒が肯定的な回答 1 70%未満の生徒が肯定的な回答	3	・行事をとおして、生徒自らが、ルールについて再考する場があった。教員も生徒の活動の支援が増えてきた。	・教員から生徒が自主的に考える声かけを実施。 ・生徒保護者にとって学校が安心安全な場所と捉えている。 ・生徒アンケートで学校の話し合いを生かして自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる項目が高く評価できる。	B	・今年度の取組を定着させ、生徒が自身のよさを意識する場を設定する。
		生徒の主体的活動の充実	・生徒会活動を中心に、生徒企画による活動の充実	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	4	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答	3	・生徒会が中心となって、生徒が企画する機会が増え、学年行事等で、生徒が企画する場面が増えてきた。	・学級活動は、多くの生徒が意志をもって活動している。 ・清泉中いじめサミットは小学校を含めた素晴らしい取組である。今後も継続することが大切。 ・生徒は充実した活動をしている。	A	・生徒会が中心となって活動する場を増やし、主体的に活動することへの充実を図る。
		誰もが楽しめる活動の設定	・道徳科を要とし人権教育を推進 ・学級活動の話し合いの質の向上	4 自己評価4段階平均値3.5以上 3 自己評価4段階平均値3.3以上 2 自己評価4段階平均値3.1以上 1 自己評価4段階平均値3.1未満	3	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 65%以上の生徒が肯定的な回答 2 50%以上の生徒が肯定的な回答 1 50%未満の生徒が肯定的な回答	4	・生徒は学校生活に対して楽しく過ごしているかの質問に肯定的な回答が96.4%であった。道徳科の授業を中心として、人権教育が実施できている。	・授業の中で、生徒は道徳的な価値観を身に付けている。 ・主体的に対話的な深い学びが推進されていると思う。いじめや人間関係に課題が残ることに関しては、人権課題に特化した研修等を通じて、生徒に「人権」について考えさせたい。	A	・道徳の授業や学級活動を中心に「自分事として考える」機会を増やす。
健やかな体	心身ともにたくましく、健やかな生徒の育成を図る。	個に応じた体力の向上	・体育の授業や部活動、行事などを通じて体を動かす楽しさを感じる機会の拡大	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	4	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答	3	・体育委員会を設置し、昼休みの体育館開放や学年レクリエーションなどを設定し、多くの生徒が参加できている。	・個に応じた体力の向上に関しては、運動することの苦手意識があったり、運動することが嫌いな生徒に対して、体育科を中心にアプローチの方法を検討する必要がある。	B	・今年度の活動をふりかえり、来年度も継続して体育委員の活動を支援していく。
		何事にもあきらめない心の醸成	・全教育活動を通じて自己調整力を付ける指導の充実 ・体験活動の充実	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	3	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 65%以上の生徒が肯定的な回答 2 50%以上の生徒が肯定的な回答 1 50%未満の生徒が肯定的な回答	4	・自己の生活を振り返りよりよくなりたいという肯定的な意見がどの学年も85%以上であり、生徒の主体的な活動が定着してきた。	・スマートフォンの普及により外で遊ぶ機会が減っているため、体を動かす習慣をつける。	B	・「なぜ」(理由)を明確に示していく。生徒の強み、アクセス評価を重視し、生徒の自信を育む指導を行う。
		食育の推進	・自分や家族の食事について考え、実践する指導を行う	4 自己評価4段階平均値3.5以上 3 自己評価4段階平均値3.3以上 2 自己評価4段階平均値3.1以上 1 自己評価4段階平均値3.1未満	3	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答	2	・1年74.4%、2年60.8%3年73.8%となった。学校としては、保健便りでの意識啓発、献立コンテストによる学びを活用する機会を設定した。献立コンテストが給食の献立にも採用され、食育への関心が高まり、効果的な取組であった。	・生徒が好きな給食や食卓に出てくる食べ物を写真や動画をういて発表させるような取り組みの提案。 ・生徒の食への意識が高まる献立を立てる。 ・献立コンテストの取組は生徒に食育を考える良い機会である。 ・食に関する感じ方は、人それぞれである。	B	・給食主任を中心に給食、お弁当の日をとおして、生徒の考えを生かした取組の充実を図る。
輝く未来	生徒一人ひとりの夢と希望を育むために、3年間の見通しに立った進路指導の実現を図る。	キャリア教育の推進	総合的な学習の時間を通じて、自らの生き方を考え、自己決定していく指導の実施	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	4	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答	4	・地域の協力のもと、職場体験を実施した。また、SDGsとも関連し、生徒が自らの生き方を考えた。	・自身の将来について考えさせる機会は中学生の早い段階から考えさせることは最も重要である。その際に外部人材や地域の教育力を生かした進路行事は生徒にとっても大きな指標となる。 ・生徒の自治活動が増えている。	A	・総合的な学習をとおして、生徒自らが、生き方について考え、自己決定の機会を設定する。
		進路指導の充実	生徒や保護者に寄り添い、丁寧かつ誠実な進路指導を実施	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	3	4 90%以上の生徒が肯定的な回答 3 80%以上の生徒が肯定的な回答 2 70%以上の生徒が肯定的な回答 1 70%未満の生徒が肯定的な回答	3	・生徒は80%以上の回答であり、自身の進路について考える機会が設定されている。	・丁寧な進路指導や、考えの聞き取りは、今後の進路を考える上で、貴重な体験になると思う。保護者も大切に思っている。	B	・学習進路部を中心に全学年の生徒、保護者に進路に関わる情報の発信をわかりやすくするため、ホームページ等の活用を図る。
		働くことの意義の理解と喜びを知る教育の推進	生徒の自治的活動を推進するとともに、地域と連携した体験活動の実施	4 自己評価4段階平均値3.5以上 3 自己評価4段階平均値3.3以上 2 自己評価4段階平均値3.1以上 1 自己評価4段階平均値3.1未満	4	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答	3	・地域で生徒が活躍する場を見つけ、生徒にその機会を提供した。参加した生徒たちは活動をとおして自己有用感を高めている。	・日々自分の好きな物を探す練習をする。心が楽しくなる事を見つける。 ・ボランティア活動は、地域にとっても、市民としての意識につながる行為である。 ・社会体験の少ない年代に、職場体験は大事です。興味をもって行動に移せるのは、有意義なこと。 ・各種団体活動の啓発活動に参加している。	B	・職場体験や地域との連携した活動を推進し、生徒が働く事への意義の理解と喜びを知る教育への支援を行う。

令和6年度		昭島市立拝島中学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	勉学 敬愛 至誠 健康	よく考え正しく判断できる人 人を敬愛し愛と慈しみのある人 誠実で責任感の強い人 健康で心身ともにたくましい人	ビジョン	【目指す学校像】	(1)安心して楽しく活動できる学校 (2)生きる力を育む学校 (3)家庭・地域とのつながりを大切にする学校
				【目指す児童・生徒像】	(1)主体的に学習する生徒 (2)相手のことを考えながら行動できる生徒 (3)共に心身を鍛える生徒
				【目指す教師像】	(1)生徒と正面から向かい合える教師 (2)豊かな人間性を備えた教師 (3)学び続ける教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価	成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策					
確かな学力	基礎・基本の定着	授業規律の確立	落ち着いた一日のスタートを切るための主体的な朝読書の取組	4	生徒が8:20分には朝読書をするように指導した95%以上達成	4	4	朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ90%以上	3	80%以上取り組んだと回答した生徒の割合は80.4%、生徒が8:20には朝読書をするように指導した80%以上と回答した割合が89.6%であった。8:20前に静かで落ち着いた環境をつくり、生徒の朝読書への取組を習慣化させる必要がある。	生徒はきちんと登校し、8:20から読書を頑張っているようで安心。読書指導は良好である。	A	8:20には担任が教室にいて落ち着いた静かな雰囲気をつくる。支援または指導を要する生徒へ学年体制で対応する。					
				3	生徒が8:20分には朝読書をするように指導した80%以上達成		3	朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ80%以上										
				2	生徒が8:25分には朝読書をするように指導した95%以上達成		2	朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ70%以上										
				1	生徒が8:25分には朝読書をするように指導した95%未満達成		1	朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ70%未満										
			教員が授業始めに教室でチャイムを聞く実践95%以上	4	チャイム終了時に授業開始の号令実施90%以上	4	4	着席チャイムが、学期を通して守ることができた90%以上	4	80%以上守ることができたと回答した生徒の割合は91%であった。授業の開始の時間を意識して準備をすることができている。取組指標、成果指標ともに90%以上と回答する割合が9割を超えるよう、徹底していく。	生徒はチャイム時には着席しており、授業中の廊下は大変静かである。授業規律は問題なく、落ち着いている様子。	A	始業チャイム前に教員が教室に入る。授業規律を徹底する。次の授業が空いている教員は休み時間中の廊下の巡回を行う。					
				3	チャイム終了時に授業開始の号令実施80%以上		3	着席チャイムが、学期を通して守ることができた80%以上										
				2	チャイム終了時に授業開始の号令実施70%以上		2	着席チャイムが、学期を通して守ることができた70%以上										
				1	チャイム終了時に授業開始の号令実施70%未満		1	着席チャイムが、学期を通して守ることができた70%未満										
		わかる授業、達成感・満足感のある授業の実践	生徒が見通しを持ち、授業で学んだことが分かる授業の実践	4	授業の目標・流れを示し、振り返り実施90%以上	3	4	授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしている。90%以上	3	目標・流れを提示していると回答した生徒の割合が87.8%、まとめ・振り返りをしてくれていると解答した生徒の割合が81.9%であった。取組指標では、85%以上実践と回答した割合が86.2%であった。85%実践の100%を達成し、分かる授業の実践をしていく必要がある。	先生方は授業の工夫を努力している。授業理解に向けもう少し努力が必要。授業は問題なくこなしているようで今後に期待。	B	黒板掲示用の「授業の目標」「流れ」「振り返り」カードを使い、全クラス全授業で統一して行う。					
				3	授業の目標・流れを示し、振り返り実施85%以上		3	授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしている。80%以上										
				2	授業の目標・流れを示し、振り返り実施80%以上		2	授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしている。70%以上										
				1	授業の目標・流れを示し、振り返り実施80%未満		1	授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしている。70%未満										
			一単位時間の学び量が豊富な授業の実践	4	週案に授業の目標提示、授業の振り返りを実践90%以上	1	4	達成感・満足感がある。80%以上	4	達成感・満足感があると回答した生徒の割合が84.7%、教科の楽しさを感じると回答した生徒の割合が82.6%であった。取組指標においては、授業の目標の設定や授業の振り返りの実施はしているものの、週案への記載が十分ではない現状がある。	授業の科目・内容にもよると思うが、教員と生徒の評価が解離している。この差が縮まるとよい。	B	週案に翌週までの授業の目標を書き、さらに計画的に授業を進めていく。生徒が何を学んだか振り返る時間を確保する。					
				3	週案に授業の目標提示、授業の振り返りを実践80%以上		3	達成感・満足感がある。70%以上										
				2	週案に授業の目標提示、授業の振り返りを実践70%以上		2	達成感・満足感がある。60%以上										
				1	週案に授業の目標提示、授業の振り返りを実践70%未満		1	達成感・満足感がある。60%未満										
豊かな心	豊かな情操の育成	主体的に規律を守る生徒の育成	教員・生徒ともに挨拶を主体的に実践及び生徒会活動の活性化	4	生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。100%	1	4	自分から進んでほぼ毎日できている	4	挨拶をしていると回答した生徒の割合は93.4%であった。取組指標において、2学期末の時点で90%以上と回答した割合は72%である。挨拶の習慣は概ね身につけていると言えるが、自分から進んで挨拶できるよう指導の充実を図る必要がある。	先生と生徒との評価に違いがある。外部の人にはよく挨拶できており、先生の評価より生徒の自主性に期待したい。	B	生徒が主体的に挨拶できるよう日々の指導を充実させる。教員からも率先して挨拶を行う。					
				3	生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。90%		3	挨拶をされたときはほぼ挨拶をしている										
				2	生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。80%		2	挨拶ができなかったことが多かった										
				1	生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。80%未満		1	挨拶はほとんどできなかった										
			主体的な清掃活動を充実させるために委員会活動の活性化	4	積極的に行った	4	4	清掃活動を、自ら進んできちんと行った90%以上	2	80%以上行ったと回答した生徒の割合は72%であった。清掃時間が短いこともあり、煩雑になっているところもある。生徒による清掃活動の振り返りと、教員の確認、指導を充実させる必要がある。	清掃活動は普通。ときどき行き届かないときが見られる。人数によっては大変になる。	B	清掃チェックシートを用いた生徒自身による清掃活動の振り返りを行い、教員による確認、指導を充実させる。					
				3	どちらかといえば積極的に取り組んだ		3	清掃活動を、自ら進んできちんと行った80%以上										
		主体的に行動できる生徒の育成	行事・委員会・係活動において、主体的に考え行動できるような指導・支援の推進	2	どちらかといえば消極的になってしまった		2	清掃活動を、自ら進んできちんと行った70%以上						4	取り組みたと回答した生徒の割合は95.4%であった。自分の仕事に対し、責任をもち主体的に取り組むことはできている。学校をよりよくするために何ができるかを考え、提案し、主体的に行動できるよう指導、支援を推進していく。	行事や委員会で生徒が主体になっていて素晴らしい。合唱コンクールは短期で成果を出すことができた。	A	生徒が主体となって活動できるように計画を立て、準備をする。
				1	消極的になってしまった		1	清掃活動を、自ら進んできちんと行った70%未満										
				4	積極的に行った	4	4	行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。90%以上	4									
				3	どちらかといえば積極的に取り組んだ		3	行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。80%以上										
				2	どちらかといえば消極的になってしまった		2	行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。70%以上										
				1	消極的になってしまった		1	行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。70%未満										
		健やかな体	心と体の健康維持	主体的に健康管理のできる生徒の育成	主体的な健康管理を推進するための生徒会活動の活性化	4	積極的に行った	4	4	自ら進んで日々の健康管理に努めた90%以上	3	80%以上できたと回答した生徒の割合は81.8%であった。給食前のうがい手洗いや朝の健康管理などしっかりと行えている。保健委員会を中心とした健康管理への啓発活動をより一層活性化させる。	健康管理は対応できている。今からの時期は体の自己管理が必要。生徒会活動でどんどん活性化してほしい。	B	保健委員会を中心とした健康管理への啓発活動をより一層活性化させる。			
						3	どちらかといえば積極的に取り組んだ		3	自ら進んで日々の健康管理に努めた80%以上								
						2	どちらかといえば消極的になってしまった		2	自ら進んで日々の健康管理に努めた70%以上								
						1	消極的になってしまった		1	自ら進んで日々の健康管理に努めた70%未満								
防災意識の高い生徒の育成	毎回の避難訓練において、防災意識を高める実践			4	積極的に行った	4	4	避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた90%以上	4	80%以上真剣に行ったと回答した生徒の割合は94%であった。無言行動を徹底し、規律のある避難訓練を実施することができている。様々な場面、状況を想定した避難訓練を実施していく。	避難訓練はきちんとできている。防災意識は家族や地域にも関わるので実践は大切。	A	避難訓練の際に無言行動を徹底する。安全指導の指導計画・指導内容を見直し、継続的に指導を実施する。					
				3	どちらかといえば積極的に取り組んだ		3	避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた80%以上										
				2	どちらかといえば消極的になってしまった		2	避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた70%以上										
				1	消極的になってしまった		1	避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた70%未満										
輝く未来	自立できる生徒の育成	他者理解を心がけ、人間関係における課題を見つけ、解決していく生徒の育成	行事や学級活動を通して、円滑な人間関係の創造	4	積極的に取り組んだ	4	4	行事・学級活動を通して、思いやりのある行動が取れた	4	取り組みたと回答した生徒の割合は97.4%であった。行事や学級活動において、人間関係の課題に向き合い、協働的に活動する様子が見られた。全教育活動を通じて自分自身を見つめる機会を意図的・計画的に設定していく。	思いやりと他者理解は進んでいる。トラブルはあるが、解決の努力をしている。色々な行事活動に参加することにより自分の成長につながる。	A	全教育活動を通じて自分自身を見つめる機会を意図的・計画的に設定する。道徳の授業やふれあい月間での取組を充実させる。					
				3	どちらかといえば積極的に取り組んだ		3	行事・学級活動を通して、どちらかといえば思いやりのある行動が取れた										
				2	どちらかといえば消極的になってしまった		2	行事・学級活動を通して、どちらかといえば思いやりのある行動が取れなかった										
				1	消極的になってしまった		1	行事・学級活動を通して、思いやりのある行動が取れなかった										
		将来の生き方を考えられる生徒の育成	キャリアパスポート、職業調べ、職場体験、上級学校調べ、高校の先生の話を聞く会等キャリア教育の充実	4	生徒が主体的に取り組めるよう積極的に指導した	4	4	将来の生き方について自ら進んで考えた90%以上	1	自ら進んで考えた80%以上と回答した生徒の割合が65.4%であった。キャリアパスポートや職場体験、進路学習など行っているが、将来の生き方と関連付けて考えることに課題がある。3年間を見通し、計画的に実施していく必要がある。	将来のことを考えることが難しい時代。情報提供など工夫が必要。社会へ出てからの円滑な人間関係を育成してほしい。	B	外部人材を効果的に活用し、学校全体で計画的にキャリア教育を実施する。また、各活動において、自分の将来との関わりを意識させる。					
				3	生徒が主体的に取り組めるようどちらかといえば積極的に指導した		3	将来の生き方について自ら進んで考えた80%以上										
				2	生徒が主体的に取り組むための指導がどちらかといえば消極的だった		2	将来の生き方について自ら進んで考えた70%以上										
				1	生徒が主体的に取り組むための指導が消極的だった		1	将来の生き方について自ら進んで考えた70%未満										

令和6年度		昭島市立多摩辺中学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】								
学校教育目標		進んで勉強しよう 思いやりのある人になろう 進んで心身をきたえよう	ビジョン	【目指す学校像】	1子ども達が安心して学び、自己実現できる学校 2個性と能力を伸ばし将来の夢や希望を育む学校 3保護者・地域と連携を図り、信頼される学校							
				【目指す児童・生徒像】	1主体的に学び、粘り強く取り組む生徒 2仲間を大切にし、集団としての規律が守れる生徒 3自ら努力し、己を鍛える生徒							
				【目指す教師像】	1生徒一人一人の良さを認め、厳しさと愛情を注げる教師 2自己研鑽に努め、組織の一員として力を発揮できる教師 3豊かな人間性を備え、生徒・保護者・地域から信頼される教師							
領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策	
確かな学力	基礎・基本の定着	授業改善推進プランに基づく、わかる授業、達成感・満足感のある授業の実践	授業改善推進プランに基づいた指導を週ごとの指導計画に位置付け	4 教員の週案提出率100%	2	4 学力調査の平均正答率が都平均から-5ポイント以内	1	学習コンテストの実施により、学習に意欲的に取り組む生徒が増えた。	先生方の努力下、良い方向に向かうことを期待している。	C	学習コンテストの取り組みを継続し、成功体験を積み重ねさせ、意欲を向上させる。	
				3 教員の週案提出率90%以上		3 学力調査の平均正答率が都平均-7ポイント以内						
				2 教員の週案提出率80%以上		2 学力調査の平均正答率が都平均-10ポイント以内						
				1 教員の週案提出率80%未満		1 学力調査の平均正答率が都平均-13ポイント以内						
		ICT機器を効果的に活用した多様な指導方法の工夫	デジタル教科書やアプリを活用した学びの姿勢が高まる授業づくり	4 生徒の意欲と理解を促すICT機器の活用に努めた100%	4	4 タブレットを活用したわかりやすい学習活動60%以上	4	わかりやすいという回答は79.6%。全教員が効果的な活用ができた。	タブレット端末を使用している姿をたびたび見かけるので、活用していると思う。	A	学習効果や意欲を向上させるICT機器の利活用について、更なる教員の能力向上を図る。	
				3 生徒の意欲と理解を促すICT機器の活用に努めた90%以上		3 タブレットを活用したわかりやすい学習活動50%以上						
				2 生徒の意欲と理解を促すICT機器の活用に努めた80%以上		2 タブレットを活用したわかりやすい学習活動40%以上						
				1 生徒の意欲と理解を促すICT機器の活用に努めた80%未満		1 タブレットを活用したわかりやすい学習活動40%未満						
		家庭学習の定着	基礎の定着を図る家庭学習の推進	4 家庭学習への指導を毎週行った80%以上	2	4 家庭学習の時間が平均1～2時間が60%以上	4	安定的に家庭学習の指導に取り組ませる教科がまだ少ないが、成果が出始めている。	週1回程度、宿題を出してもらえると良い。家庭学習はもっとやった方が良い。	C	意欲に繋がる取り組みやすい課題の工夫や学習の定着を図る家庭学習となるように工夫する	
				3 家庭学習への指導を毎週行った70%以上		3 家庭学習の時間が平均1～2時間が50%以上						
				2 家庭学習への指導を毎週行った65%以上		2 家庭学習の時間が平均1～2時間が45%以上						
				1 家庭学習への指導を毎週行った65%未満		1 家庭学習の時間が平均1～2時間が45%未満						
豊かな心	豊かな情操の育成	偏見や差別のない豊かな人間性の育成	集団の一員としての自覚をもち、個性を認め、協力し合える生徒の育成	4 「絆づくり」を意識した教育活動を行った90%以上	4	4 落ち着いて安心して生活できている80%以上	4	互いを認め合い、いじめや差別を許さない指導の徹底により、安心安全を守ることができた。	挨拶がよい。落ち着いた生活の成果の一部だと思う。道徳授業は大切である。	B	引き続き「絆づくり」の教育活動を推進し、生徒の自治力を高めていく。	
				3 「絆づくり」を意識した教育活動を行った80%以上		3 落ち着いて安心して生活できている70%以上						
				2 「絆づくり」を意識した教育活動を行った70%以上		2 落ち着いて安心して生活できている60%以上						
				1 「絆づくり」を意識した教育活動を行った70%未満		1 落ち着いて安心して生活できている60%未満						
		多様で豊かな教育活動による自己有用感の醸成	学級満足度調査の活用による、生徒の良さを発揮できる教育活動の実践	4 生徒の心に寄り添い、良さを活かす支援を行った100%	4	4 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた80%以上	4	勇気づけ言葉の実践により、生徒に自信と責任感をもたせ、主体的な活動ができた。	生徒は落ち着いて生活してる。不登校生徒を除くとよい雰囲気だと思う。	A	教員による勇気づけ言葉を手本として示し、生徒にもよい言葉掛けの力を付けさせる。	
				3 生徒の心に寄り添い、良さを活かす支援を行った90%以上		3 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた70%以上						
				2 生徒の心に寄り添い、良さを活かす支援を行った80%以上		2 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた60%以上						
				1 生徒の心に寄り添い、良さを活かす支援を行った80%未満		1 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた60%未満						
		他者理解を心掛け人間関係における課題を見付け解決していく生徒の育成	学級活動・行事・生徒会活動・部活動等における円滑な人間関係の構築	4 生徒一人一人が活躍できる教育活動を行った100%	4	4 行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた80%以上	4	学校生活の中で、一人一人が自分の役割を自覚し、協力し合う取り組みができた。	行事では生徒が中心となって頑張っている。不登校を除く生徒は、一生懸命に取り組んでいる。	A	生徒自身がよりよい人間関係の構築のための課題に気付き、解決する力を育成する。	
				3 生徒一人一人が活躍できる教育活動を行った90%以上		3 行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた70%以上						
				2 生徒一人一人が活躍できる教育活動を行った80%以上		2 行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた60%以上						
				1 生徒一人一人が活躍できる教育活動を行った80%未満		1 行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた60%未満						
健やかな体	心と体の健康維持	自ら健康管理のできる生徒の育成	主体的な健康管理を推進する指導の実践	4 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ90%	3	4 自ら進んで日々の健康管理に努めた90%以上	4	学年が上がるにつれ、生活習慣が乱れる傾向があるが、感染症対策には意識が高い。	元気に登校し、成長していく姿が見られた。自己管理ができていないのではなか。	A	SNSの利用時間をコントロールし、適切な睡眠時間を確保できるように指導を行う。	
				3 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ80%以上		3 自ら進んで日々の健康管理に努めた80%以上						
				2 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ75%以上		2 自ら進んで日々の健康管理に努めた70%以上						
				1 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ75%未満		1 自ら進んで日々の健康管理に努めた70%未満						
		多様で豊かな教育活動による自己有用感の醸成	正しい行動選択ができるようにするための避難訓練、セーフティ教室の実施	4 安全教育・予防指導の徹底に努めた90%以上	4	4 学んだ知識を生活によく生かしている50%以上	4	実践的な訓練を繰り返し、指示がなくても退避行動がとれるようになった。	指導は大変だと思うが、まずは先生方が心身ともに健康であることも大切である。	A	訓練を生徒の成長を促す機会として捉え、自己防衛力、生存スキルを更に身に付けさせる。	
				3 安全教育・予防指導の徹底に努めた80%以上		3 学んだ知識を生活によく生かしている40%以上						
				2 安全教育・予防指導の徹底に努めた70%以上		2 学んだ知識を生活によく生かしている30%以上						
				1 安全教育・予防指導の徹底に努めた70%以上未満		1 学んだ知識を生活によく生かしている30%未満						
		体力向上に向けた教育活動の推進	体育の補教運動、昼休みの校庭開放、部活動等の運動習慣の育成	4 運動に親しむ取り組みを行った80%以上	3	4 学校でたくさん体を動かしている50%以上	4	たくさん身体を動かしている生徒72.6%。運動に適した気温になったことが大きいと考える。	学校でいろいろな競技を体験しているので、良いと思う。	A	自分の体力レベルを把握し、向上を目指す指導を継続する。	
				3 運動に親しむ取り組みを行った70%以上		3 学校でたくさん体を動かしている40%以上						
				2 運動に親しむ取り組みを行った60%以上		2 学校でたくさん体を動かしている30%以上						
				1 運動に親しむ取り組みを行った60%未満		1 学校でたくさん体を動かしている30%未満						
輝く未来	自主自律の精神の育成	自己の将来を切り拓く力の育成	自治的な学級活動、生徒会活動、部活動の実施	4 生徒が主体的に課題解決できるように指導した80%以上	4	4 自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う80%以上	4	次の世代の新しいリーダーを発掘し、生徒の課題解決能力の育成に教員も尽力した。	行事ごとにリーダーがいて、そこからの組織編成ができているように感じる。	A	生徒主導で企画・運営を行い、更に責任感や問題解決能力を養う体験を充実させる。	
				3 生徒が主体的に課題解決できるように指導した70%以上		3 自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う70%以上						
				2 生徒が主体的に課題解決できるように指導した60%以上		2 自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う60%以上						
				1 生徒が主体的に課題解決できるように指導した60%未満		1 自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う60%未満						
		自身の変容や成長を自己評価する取り組みの充実	行事や学期ごとのキャリア・パスポートの活用	4 キャリヤパスポートの活用ができた90%以上	1	4 自分の得意なことを考えることができた80%以上	4	行事の取り組みや学級活動を振り返る中で、自分の良さや成長に気づくことができた。	自らを振り返り、個々人が努力をしているように見受けられる。	B	目標設定や自己評価を行い、継続的な成長を促す。	
				3 キャリヤパスポートの活用ができた80%以上		3 自分の得意なことを考えることができた70%以上						
				2 キャリヤパスポートの活用ができた70%以上		2 自分の得意なことを考えることができた60%以上						
				1 キャリヤパスポートの活用ができた70%未満		1 自分の得意なことを考えることができた60%未満						
		豊かな人間性と社会性を養う系統的なキャリア教育の充実	3年間を見通したキャリア教育の実践(職業調べ、職場体験、上級学校調べ)	4 生徒が主体的に取り組めるよう指導した85%以上	2	4 将来の生き方について自ら進んで考えた95%以上	4	自分を知る取り組みや職場体験、受験を機に生徒の意識に変容が見られた。	子供の意識の変化がみられ、良かった。	A	多様な機会を提供し、視野を広げ、更に生徒自ら考え、行動できるように指導を行う。	
				3 生徒が主体的に取り組めるよう指導した75%以上		3 将来の生き方について自ら進んで考えた90%以上						
				2 生徒が主体的に取り組めるよう指導した65%以上		2 将来の生き方について自ら進んで考えた80%以上						
				1 生徒が主体的に取り組めるよう指導した65%未満		1 将来の生き方について自ら進んで考えた80%未満						